



修 正 新 編
世 界 地 理 教 科 書

上 卷

文 學 士
中 目 著
覺

東 京
三 省 堂 發 兌

第百四期

273

第百三期

274

中卷

日六十二月二十年元正大
濟定檢省部文

編新正修
書科教理地界世
卷上

授教校學範師等高島廣

士學文

覺目
著中



京東

兌發堂省三

旗 國 各



希臘



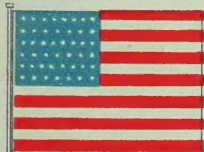
義耳白



利吉英



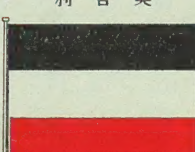
本日大



國眾合加利米亞



西瑞



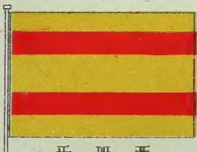
逸獨



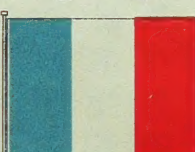
旗隊聯本日大



哥西墨



牙班西



西蘭佛



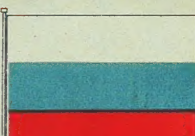
旗軍海本日大



滿西刺伯



牙葡葡



亞西露



清



丁然爾亞



抹丁



利太伊



羅暹



魯秘



典瑞



利牙洪, 利地填



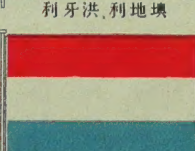
斯波



邦聯利刺太澳



威諾



蘭和



其耳土

緒言

本書は明治四十四年七月文部省定むる所の中學校教授要目に則りて編纂し、中學校地理教科書に充つるを以て目的としたり。即ち上卷は第二學年、中卷は第三學年、下卷は第四學年に於て之れを使用せんと欲す。本邦中等學校と、歐米諸國の同程度の諸學校とに於ける、地理科の内容を比較する時は、我れに聊か遜色あるを認むと雖、今俄かに之れを改むるは、却つて弊害ありと信じ、本書の内容も略、從來の程度に止めたり。又地理科は、他の諸學科と關聯する所、甚だ深且つ密なるものありと雖、現時の教育諸大家は、中學校に於ては、歴史との連絡を以て尤も適切と認むるが如し。されば著者は、各國の沿革を略述するを以て、至當と信じたり。又地名人名は、文部省調査表に則りたれども、國定教科書小學地理との連絡上、二三の例外なきにあらず。次に統計、挿畫、地圖等は、斬新のもの

を撰びたり。次に學術界の趨勢を見るに、度量衡の如きは、米法に従ふもの漸く多からんとす。是れ本書に於て、數量は多く米法に従ふ所以なり。されど初學者の不便を恐れ、卷末に度量衡比較表を附したり。抑も教科書は、教授の骨子に過ぎずして、生徒の習得を確實ならしむるには、諸種の演習を必要とす。前述の比較表の如きは、國勢一覽及び貨幣換算表と相待ちて、尙ほ是れ等演習上の一助たるを得べし。要するに本書は、文部省所定要目の範圍内に於て、簡潔を旨としたれば、教師諸氏が敷衍節略其の宜しきを得、地理教授に一段の進歩を示さば、著者又何をか望まん。終りに臨み本書編纂に際し、有益なる助言多大の補助を與へられたる各位に對し、謹んで深謝の意を表す。

大正元年九月

著者識

修正 世界地理教科書 上卷

目次

第一編 滿洲

第一章 關東州

第二章 滿洲

第二編 亞細亞洲

第一章 總說

第二章 支那

第一節 支那本部

第二節 蒙古

第三節 新疆省

第四節	青海	四三
第五節	西藏	四三
第六節	列國の領地及び租借地	四三
第七節	本邦との關係	四五
第三章	亞細亞露西亞	四七
第一節	西比利亞	四七
第二節	中央亞細亞	五五
第三節	カフカズ	五七
第四章	亞細亞土耳其	五九
第五章	亞刺比亞	六一
第六章	イラン地方	六三
第七章	印度	六四
第八章	印度支那半島	七三

第九章 馬來群島

六六

修正新 世界地理教科書 上卷 目次 終

修正新 世界地理教科書 上卷

文學士 中 目 覺 著

第一編 滿洲

第一章 關東州

一、位置・境域 關東州は、遼東半島の南西部、即ち西は普蘭店

長山列島中の海洋
島附近は二十七
八
年役の古戦場

二百里
面積

平方呎

人口

三三七三

四四六〇〇〇

一名大赫山
七〇〇米

二、地勢 長白山脈の支脈、域内を縦走して丘陵多く、金州附
近にては大和尚山となり、更に南西にのびて大孤山・二〇三
高地・老鐵山等起し、其餘派、海に没して廟島列島となる。

南山は三十七八年
役の激戦地

關東半島

都督は陸軍大中将
を以て任ず

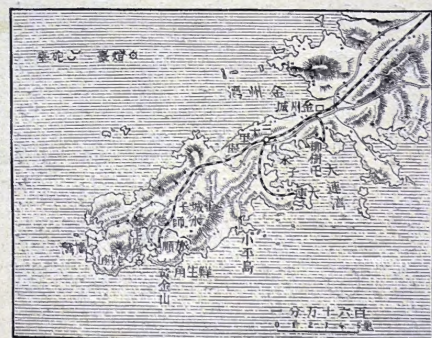
半島の中部は、金州・大連の二灣深く入りこみて、金州地峽をつくり、こゝに南山の險要あり。

三、氣候・生業 此の地方は我が酒田・水澤附近と、同緯度にあれど、大陸の影響をうけ、内地に比すれば、一般に寒冷なり。雨量も内地に比すれば少く、唯夏期に多し。』

沿岸は、鹽の産多く、特に二道溝・貔子窩等に盛なり。又沿海地方には魚類多し。陸には高粱・王蜀黍等を産す。

四、住民・政治 人口凡そ五十萬、主として支那人なれども、三萬餘の本邦人ありて、商工業の實權を握る。

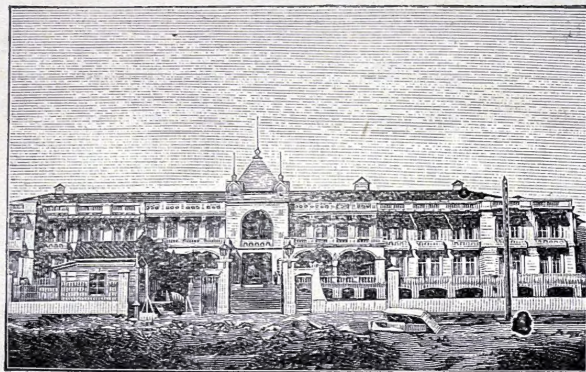
我が國は、旅順に都督府を置き、本州の管轄、及び南滿洲の鐵道と其の沿道の保護取締とに任せしめ、大連及び旅順には



露國の營經せし市
街にしてもとダ
ルニと稱せり

關東都
督府民政署

大連埠
頭に於ける大
豆船積



民政署を置いて、各管内の政務を分擔せしむ。

五、都會・交通 大連・人口四萬 大連灣にのぞ

み、柳樹屯と相對し、門司より航海二晝夜六四〇海里にして達すべし。

民政署・南滿洲鐵道會社等あり。市街及び港

灣の設備の完成せるは、東洋中稀に見る所とす。南滿洲鐵道の起點にして、大豆・豆粕・柞蠶絲等の輸出多く、營口と



其の商權を爭ふ。

南滿洲鐵道により、臭水子に至れば、旅順に至る支線あり。

英國の海軍大尉
アイサー氏の發見に
かゝる

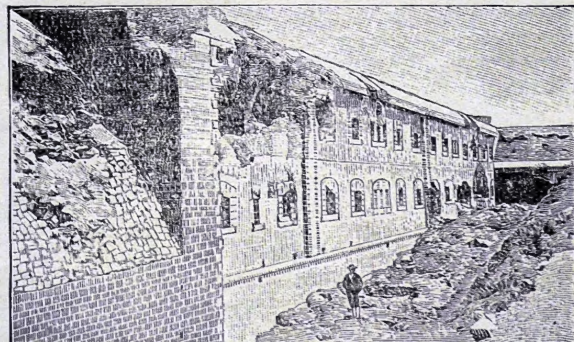
東鶏冠
山砲台跡

旅順五萬は關東半島の南端にあり、四面丘陵を繞らし、狹き水路により渤海灣口に通ずる形勝の良港にして、東西兩港に分る。東は軍港にして、西は商港なり。

海軍鎮守府、關東都督府、民政署、高等法院、工科學堂等置かる。附近の二〇三高地、

松樹山等は、二十七八年三十七八年兩戰役に於ける壯烈なる激戰地なり。

臭水子より本線に沿ひて北すれば、金州萬一普蘭店等を経て、南滿洲の諸驛につらなる。



金州は金州地峽に位し、支那歷朝、此の地を以て、遼東の重鎮となせり。我が民政支署の所在地なり。此の地より柳樹屯に通ずる鐵道支線あり。

六沿革 二十七八年戰役により、遼東半島我が手に入らんとせしが、露佛獨三國の抗議により、これを清國に還附せり。明治三十一年膠州灣事件起るや、露國は旅順大連二十五年の租借權と、東清鐵道の一驛より、これに通ずる支線敷設權、及び其の沿道の鑛山採掘權を得、旅順の防備を嚴にせり。三十七八年戰役の結果、我が國は露國に代りて、此の地方の租借權を得、長春以南の鐵道をあはせ、此の地方富源の開發をつとむるに至れり。

第二章 滿洲

面積
九十四萬五千方
人口
一千六百萬

一、位置・境域 滿洲は支那の北東部を占め、奉天・吉林・黑龍江の三省より成り、一に東三省といふ。

北東は、黑龍江・烏蘇里江及び凱興湖等によりて、西比利亞に接し、南東は、鴨綠江・長白山及び圖們江によりて、朝鮮と境す。面積我が國の一倍半に近し。

二、地勢 西に興安嶺あり、東に長白山・摩天嶺等あれど、中部は松花江・遼河の流域にして、大平原をなし、農牧の業盛なり。遼東半島、長く南西に突出して、渤海灣と黃海とを分ち、旅順・大連等二三の良港を有す。

三、氣候・生業 氣候は大陸性にして、寒暑の差甚だしく、遼河の如きも凡そ半年は氷結す。夏期に豪雨多し。

土地肥え、南滿洲には大豆・高粱・玉蜀黍等多く、北滿洲には小麥の栽培盛なり。牧畜は一般に行はる。鑛物は撫順・煙臺

等の石炭を第一とし、三姓附近の金これにつぐ。森林は鴨綠江流域に多く、日清合同の採木公司ありて、其の經營にあたり、木材の安東縣より輸出せらるゝもの多し。其の他柞蠶繭等の産も少からず。工業は未だ盛ならず。但し營口附近の豆糟・豆油製造は其の規模極めて大なり。又鐵道幹線の附近には諸種の新工業起れり。

四、交通 遼河・松花江等は、舟運の便極めて大にして、夏はジャンクの上下するもの多く、冬は氷結して車道となる。道路は日露人の居住せる地方をのぞけば甚だ不完全なり。東清鐵道は北滿洲を縦斷して、滿洲里・海拉爾・哈爾濱等を連ね、我が南滿洲鐵道は長春に於てこれと連絡し、旅順・大連及び營口に通じ、遼河と共に此の地方の動脈となる。又我が安奉線は、奉天・安東縣をつらねて遠く釜山と連絡し、奉天・營

ツングース族には
鐵足の惡習なし

口よりは更に錦州・天津等に通ずる線あり。海上交通は大連・營口を中心として、本邦船等の出入しげく、ジャンクは山東省地方と盛に往復す。

五、住民政治 滿洲固有の住民は、ツングース族なれども、今は山東・直隸地方より、多數の漢人入り來りて商權をにぎり、言語・風俗等も其の感化を受けし點多し。北西部には蒙古人ありて、農牧に従事す。其の他、南滿洲に本邦人、北滿洲に露西亞人の居住せるもの少からず。此の地方は清祖發祥の地なれば、從來は形式上重を措きて、他の地方と其の行政を異にせしが、今は各省に都督を置き、此の地方の民政・軍政を統べしむ。

六、地方誌 盛京省・奉天省は所謂南滿洲の地にして、地勢上東西の二部となる。西は遼河の流域にして、大豆・高粱の産

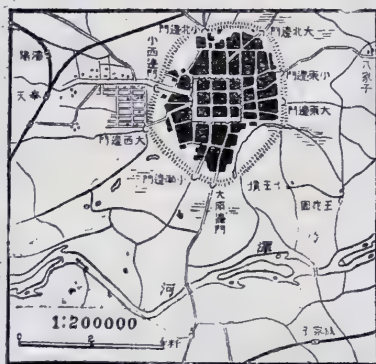
奉天の市街及び附近

奉天の市街



少からず、東部山地は石炭・主蜀黍・柞蠶等多し。奉天・十六は渾河の北方に位し、滿洲政治・經濟等の中心地に

して、第一の都會なり。清の太祖（愛親覺羅努爾哈赤）の初めて都せし處にして、北陵・東陵等存す。我が總領事館あり。遼陽は奉天につぐ都會にして、附近の首山堡は、三十七八年戰役の激戦地として名高し。鐵嶺は



北陵の東門



吉林省は盛京省の北東に位し、北部は松花江の流域に屬す。哈爾濱は松花江に沿ひ、鐵道の交叉點に位し、北部滿洲の大

遼河の中流に位し、馬蜂溝を其の咽喉とし、大豆の取引盛なり。通江子は遼河水運の終點にして亦大豆の取引多く、其の對岸法庫門は蒙古との交易盛なり。遼河の河口に營口あり。南滿洲の門戸をなし、大連と競争の地位にありて、豆油、豆糟の製造盛なり。鴨綠江口に安東縣あり、新義州と相對して交通の要地となり、且木材の集散多く、邦人の在留するもの少からず。

哈爾濱と松花江の鐵橋



市街となる形勢あり。隣寸製造製粉業等盛なり。長春は南滿洲鐵道の終點にして商業盛なり。此の地より吉林に至る鐵道は、近時開通して、更に間島に延長せらるべし。松花江と牡丹江との會點に三姓あり、河港にして附近に金の産多し。寧古塔は吉林省の首府にして、附近は清祖發祥の地なり。琿春は露鮮の境に近く邊要の地なり。黑龍江省は最大の省にして、省城を齊齊哈爾といふ。愛琿は黑龍江をへだて、ブラゴベシチンスクに對し、一名黑龍江城といふ。滿洲里は西比利亞に近き開市場なり。

六大洲の面積比較

洲亞細亞			
料方万百四千四			
洲加利弗亞	洲加利米亞北	洲加利米亞南	洲巴羅歐
		洲亞細亞	

第二編 亞細亞洲

第一章 總說

一、位置・境域 亞細亞洲は東半球の北東部を占め、面積凡そ四千四百萬方料、地球上最大の大陸にして、世界全陸地の略三分の一にあたる。

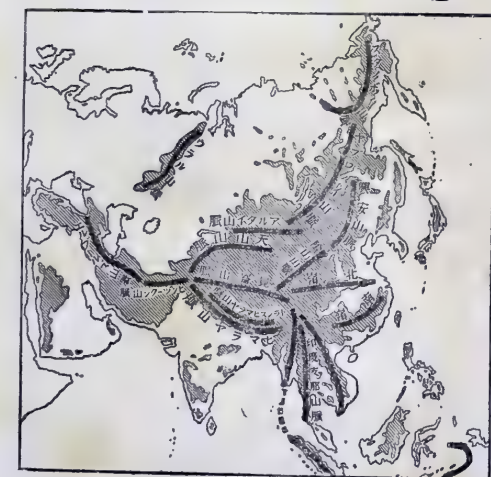
北は北極洋に臨み、東は太平洋及びベーリング海峡をへだて、亞米利加大陸に對し、南は印度洋に面し、南西は紅海・スエズ海峡を以て、亞弗利加洲に接し、西はウラル山脈・裏海・ウラル川・黒海等を以て、歐羅巴洲に境す。

二、地勢 (イ) 概説 本洲の略中央にあたり、世界の屋根の稱あるパミール高原あり、山脈これより四方に射出し、各斜面に大小の平野あり。地形雄大にして、世界第一の大山系大



勢地の洲巴羅歐び及洲亞細亞

亞細亞洲の山系

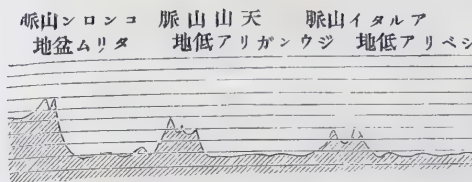


高原・大低地・大湖・大半島等を有す。
 (ロ) 山系 バミール高原の北東を
 東走するものには天山・アルタイ
 二山系あり、更に北東にのびてヤ
 ブロノイ高臺・スタノボイ山脈等
 となり、ベーリング海峡に至りて
 盡く。東に走れるは、崑崙山系に
 して、支那本部に入りて、北嶺とな
 り、其の一派は興安嶺となる。

以上の諸山脈にはさまれて、荒漠なるタリム盆地・ゴビ沙漠
 等あり。雄大なるヒマラヤ山系は、バミール高原の南東に
 大彎を畫き、崑崙山系との間に、世界一の大高原・西藏高臺を
 つくる。世界第一の高山エベレスト峯(八八四〇米)は、此の

各大陸平均高度	九五〇〇米
亞細亞	三〇〇〇
歐羅巴	六五〇〇
亞非利加	七〇〇〇
北亞米利加	六〇〇〇
南亞米利加	四〇〇〇
大洋洲	四〇〇〇

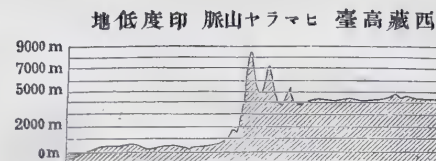
東經八十七度に於ける亞細亞洲の南北斷面圖
(高さ五十倍)



山系中に聳え、その他五千米以上の高峯多し。印度支那山系は、ヒマラヤ山系の東を縦走し、馬來半島の南端に及べり。バミール高原より南にスリマン山脈あり、西にヒンヅークシ山脈エルブールズ山脈あり、更に西にのびてカフカズ山脈に連る。此れ等の諸山脈の南は、イラン高臺をなす。其の他印度にはデカン高臺、亞刺比亞には亞刺比亞高臺あり。

(ハ)水系及び平野 主要なる河流は、概ね源を中央の高地に發し、四方に流れ、雙子河多し。太平洋斜面には、黑龍江、黃河、揚子江、西江及びメコン河あり。揚子江最も水運の便に富み、其下流の流域に豐沃なる支那平原あり。

印度洋斜面には、ガンガ、ブラマ、ブトラ、インダ



ス、シテ、アラブ等の諸川ありて、印度平原、メソポタミア平原等をつくる。北は北極洋に緩斜し、オブ・イニ・セイ・レナの三大河、ゆるく流れ、本洲第一の西比利亞大平原をなす。

本洲の中部及び西部には、内陸流域の河流多し、即ちアム河、シル河は、アラル海に入り、ウラル河は裏海に注ぎ、伊犁河はバルハシ湖に入る。

湖沼の大なるものには、裏海あり、面積四十四萬方糎に及び、世界第一の鹹湖なり。其の東にアラル海、バルハシ湖あり。又バイカル湖は、世界最深のものと稱せられ、死海は世界の最低地にありて、其の水面は地中海面より低きこと三九四米なり。

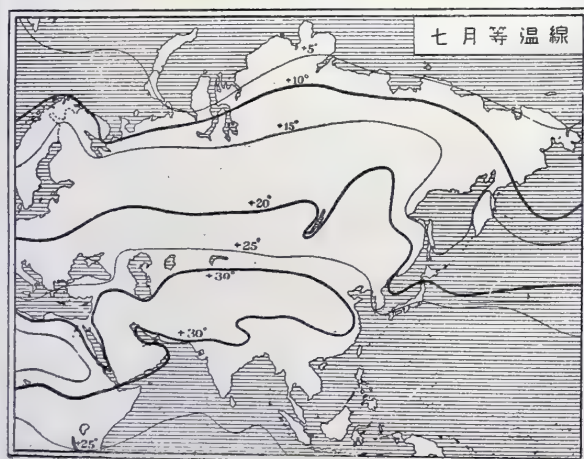
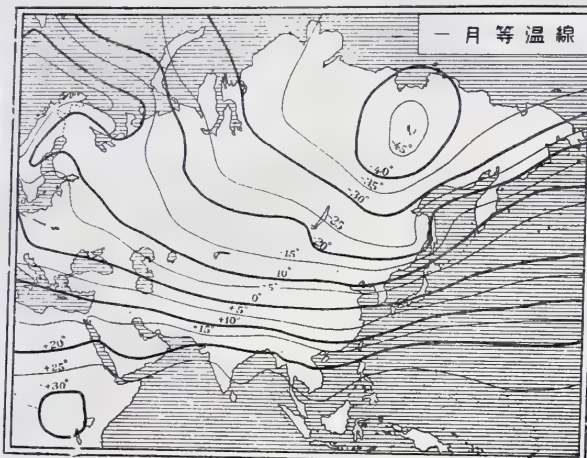
カスピ海
四十四萬方糎
アラル海
六萬九千方糎
寄海
七千方糎
バイカル湖
三萬四千方糎
バルハシ湖
二萬方糎

(二) 海岸及び屬島 胴體部と半島・島嶼等との比は、歐羅巴洲につき世界第二に位すれども、海岸線は面積に比すれば甚だ短く、且つ海岸より遠き内陸の廣大なること、他に比類なし。出入は北極洋岸に最も少く、且つ終歲殆んど氷結して舟運の便なし。又ニューシベリア諸島の外、著しき島嶼なし。ベーリング海峽を過ぎて太平洋に出づれば、カムチャツカ朝鮮・印度支那の三半島突出し、日本列島・馬來群島等羅列してオホーツク海・日本海・東支那海・南支那海等の縁海をつくる。本洲中海岸線最もよく發達し、島嶼もまた多き地方とす。印度洋には、印度半島突出して、ベンガル灣・亞刺比亞海をつくり、其の西には、亞刺比亞の大半島ありて、波斯灣と紅海とを分つ。

西方には、小亞細亞半島、地中海に突出して、黑海を抱き、マル

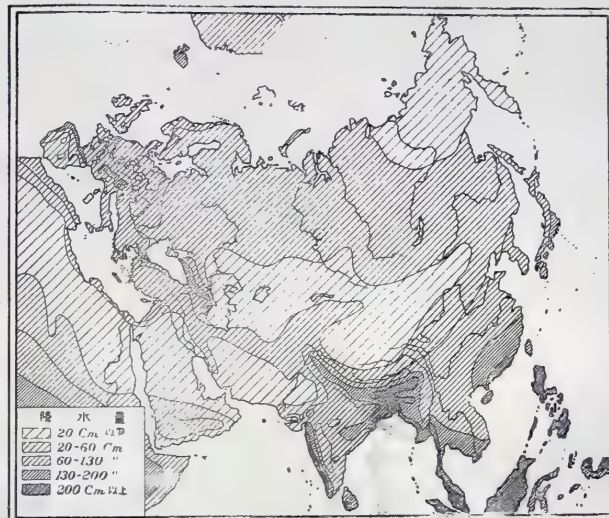
上は亞細亞洲一月等温線 下は七月等温線

常に遠き中部地方は、空氣乾燥して寒暑の差甚だしく、大陸的氣候をな



マラ海をへだて、歐洲のバルカン半島と相對す。
(ホ) 氣候 本洲は寒・溫・熱の三帶に跨がり、面積廣大にして地形複雑なるが故に、氣候は一様ならず。海岸を距ること非

圖解 亞細亞洲
大陸の雨量分
布



し、沙漠又は草原をなせる處多し。北部は、南に山脈ありて暖風をさへぎり、北は北極洋に傾斜せるが故に、甚だ寒冷にして、極北部は凍土(ツンドラ)をなし、レナ河下流附近は、世界の寒極と稱せらる。西部の黒海・地中海沿岸は溫和なれども、イラン・亞刺比亞の高臺地方は、世界最熱地の一と稱せられ、酷熱にして雨少く沙漠をなせる處多し。南部及び東部は、毎年季節により一定の風吹くが故に、季節風帶と稱せらる。氣候溫和にして雨量多く、殊にブラマブトラ下流附近の如きは、世

圖解 亞細亞洲
洲の生物一斑



界に於て雨量最も多し。されば農産物も從つて豊なり。
三、天産物 かく氣候の變化多きが故に、生物にも其の種類多し。南部には象・虎・豹・犀・狸・々・大蛇・鰐魚等の如き巨大猛惡なるもの、孔雀の如き美麗なるもの多く、又、椰子樹・マングローブ等の熱帶植物繁茂し、種々の香料

材木等の産多し。

南東沿海地方の平原は、米・茶・桑等の産地にして、中部地方には牛・馬・駱駝・犛牛等の牧畜盛なり。北部に至るにしたがひ、植物漸次減少し、極北部には僅かに、蘚苔類をみるにすぎず。動物には、白熊・貂・狐等の毛皮獸あり。又北東部の近海は、寒暖二流の影響をうけて、水産多く、臘虎・臘肭獸等の海獸も少からず。鑛物は、アルタイ・ウラル山地の金、支那の鐵・石炭・カフカズ及びスマトラの石油、馬來半島の錫等を著名とす。

ウラル山地の金坑は概ね歐羅巴に屬す

圖 亞細亞洲に於ける人種分布

人種分布圖

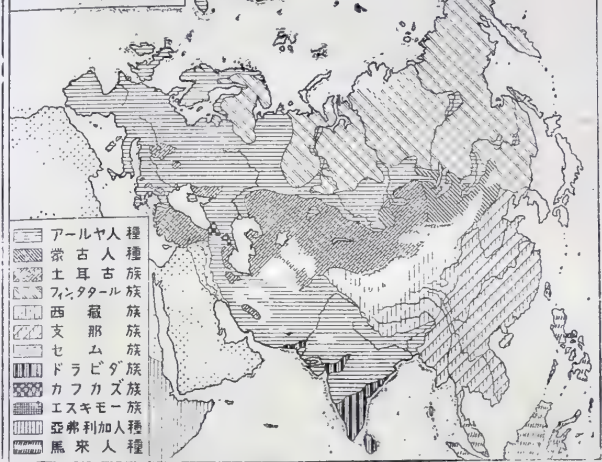


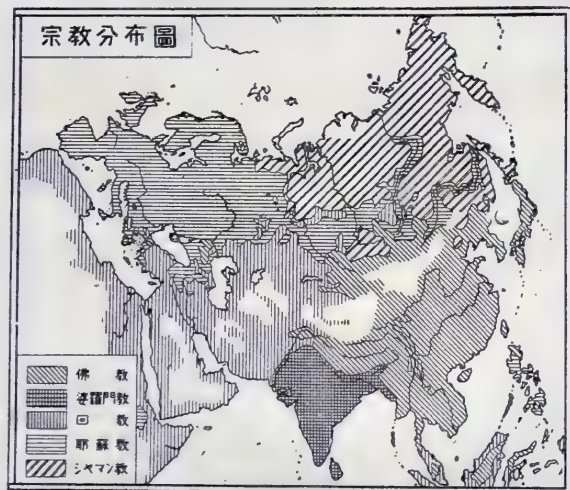
圖 亞細亞洲に於ける宗教分布

四、住民

人口八億餘ありて世界全人口の半以上を占む。其の分布は地勢・氣候の狀態により一様ならず。南部、東部の低地及び島嶼は、世界稀なる人口稠密なる地方なれど、北部の凍土帶地方及び内地には無人の地少からず。人種は、蒙古・アールヤ・馬來の三大人種あり。蒙古人種最も多くして、東部に住し、アールヤ人種は南西部に、馬來人種は馬來半島及び其附近に多し。

本洲は世界大宗教の發源地なり。佛教は我が國及び支那に行はれ、波羅門教は印度に、回教

宗教分布圖



は西部亞細亞に盛なり。耶蘇教は近時、處々に行はるれども、未だ盛ならず。

五、**生業** 本洲は農業を主生業とす。殊に支那及び印度は世界の大農産地にして、米・綿・茶・蠶等盛なり。牧畜は内地の高原草地に行はれ、牛・馬・豚・駱駝等多し。礦物は頗る豊富なる埋藏あれど、採掘未だ十分ならず。工業は印度及び我が國・支那等、稍見るべきものあれど、これを歐米諸國に比すれば及ばざる事遠し。

六、**交通** 交通の發達は未だ十分ならず。内地は道路も完備せざる處多く、交通機關としては、北部は多く橈を用ゐ、其の他は主として、馬又は、駱駝の脊を借る。

鐵道の延長は、世界全長の十分の一にすぎず、其の最も發達せるを印度とす。露國の西比利亞大鐵道、外裏海鐵道及び本

邦の滿鮮鐵道等は、世界交通上に便益を與ふる事少からず。北部の諸河をのぞき、其の他の諸大河は、概ね交通の便多し、殊に揚子江の如きは、河口より約三千料の上流まで汽船を通ず。北極洋をのぞき、海路の交通は比較的盛にして、上海・香港・新嘉坡・橫濱等を中心とし、亞米利加・歐羅巴・大洋洲等との交通頻繁なり。

電信は一般に敷設せられ、陸上線はもとより數條の海底電線ありて、各大洲との通信自在なり。又、無線電信局も、近時各地に設置せられ、通信の設備ますく整ふに至れり。

七、**區劃** 本洲は面積大なれど、多くは歐米諸國の領地・租借地又は保護地にして、獨立國と稱すべきは我が國及び支那・暹羅・波斯・阿富汗斯坦の數國に過ぎず。而して、これ等の多くは列強勢力の平衡上僅かに其の獨立を維持せるものに

して、眞に獨立國の體面を維持し得るは、我が大日本帝國あるのみ。

第二章 支那

亞細亞洲の四分の一を、露佛につぎ、世界第四の大國なり

一、位置・境域 支那は亞細亞洲の中部及び東部の大部分を占め、面積一千一百万方呎にあまり、歐洲全土よりも廣し。
 二、地勢 (イ) 概説 西部及び北部は、一帯に高原不毛の地多けれども、南東部は平野廣く、土地肥え人口稠密なり。
 (ロ) 山系 國の西部には、崑崙・天山・アルタイ・ヒマラヤ等の諸山系ありて、西藏高原・タリム盆地・ジンガリア盆地・ゴビ沙漠等をつくる。崑崙山系は、更に東にのびて、支那本部に入り、秦嶺山脈(北嶺・伏牛山脈)となり、揚子江口に至り海に没す。これ南北支那を分つ境界線たり。其の一脈は北東に延び

て、陰山山脈・興安嶺等となる。

又、バルマと接する處には、印度支那山系縦走し、支那本部の南には南嶺ありて、南西より北東に連る。
 (ハ) 水系 西部・北部にはタリム河・伊犁河・青海・ロブノル等内陸系の河湖多く、東部は太平洋斜面に屬す。

黄河は源を崑崙山中に發し、汾水・渭水・洛水等をあはせ、渤海灣に注ぐ。下流は洪水多く、河道しばしば

變遷す。沿岸黄土多く、河水黄濁せり。舟運の利少し。

揚子江も、源を崑崙山中に發し、南流して金沙江といひ、四川



南支那の山水

黄河は單に河と稱せらる

揚子江は一般に長江又は江と稱す

省に入り岷江、嘉陵江等をあはせ、三峽の險をすぎて平原に出づるや、漢江等の巨流をあはせ、東流して東支那海に注ぐ。長さ五二〇〇浬、亞細亞洲第一の巨流にして、下流は自由の大汽船を通じ、沿岸開港場多く、支那の富源は實にこゝにあり。洞庭湖、鄱陽湖は、ともに水路を此の河に通じ、河水の調節作用をなす。

南嶺以南は、珠江の流域にして、平野亦多し。

(二) 海岸 海岸線は比較的短く、北には小出入少けれども、遼東・山東の二半島突出して渤海灣を抱き、旅順・膠州灣・芝罘等二三の良港あり。東支那海には舟山列島あり。沿岸亦小屈曲多く良港少からず。南支那海には、雷州半島ありて、海南島と共に東京灣を抱く。

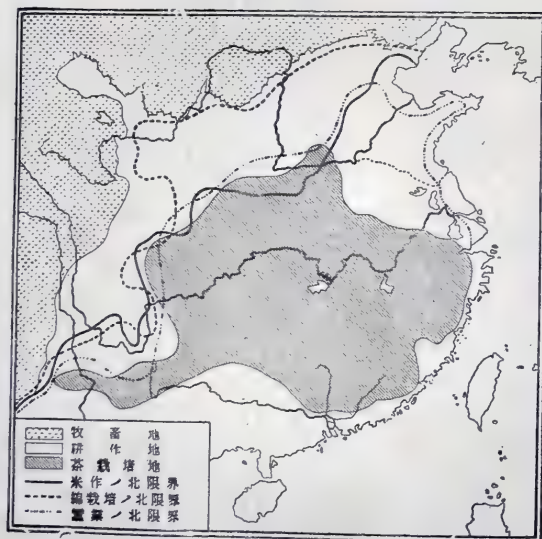
三、氣候 土地廣大なるが故に、氣候も亦一樣ならず。黄河

北部には畑多く南部には水田多し

支那に於ける農産物の分布

以北、西藏、新疆省等は海洋の影響少く、従つて降雨稀に大陸的氣候を有す。揚子江岸は、氣候中和にして、雨量亦適度なり。南部は熱帶性にして、雨亦多く、夏秋の候、大風しばしば襲來す。

四、生業 支那本部の大部は、肥沃の地多く大農産地たり。北部には麥・高粱・豆等を産し、南部には米・茶・綿・阿片・桑等の栽培盛なり。高原地方は、牧畜盛にして、牛・馬・羊・山羊・犛牛・駱駝等多く、豚は食用として至る所に飼養せらる。水産物は需要多けれども、産



額少きを以て、我が國よりの輸入を仰ぐ。鑛物は頗る豊富にして、特に鐵・石炭の埋藏は世界無比と稱せらるれども、採掘未だ盛ならず。唯直隸省の開平、江西省の萍鄉等の採炭、大冶の採鑛事業等を稍、見るべきものとす。國民一般に手藝に巧にして、陶器・絹布等は古來精巧の名あり。近時揚子江岸に、製鐵紡績・造船・マ・チ等の新工業勃興しつつあり。

古來南船北馬の諺あり、これ南清にては河川運河多ければ舟運の便多く北部は行旅馬、駱駝等の背をかりて往來する事多ければなり

外國貿易は、年額九億八千萬圓に及び、其の取引國は英國第一にして我が國・米・佛・露等これにつぐ。主なる輸出品は、絹・茶・綿・豆等にして、綿布・綿糸・阿片・石油・砂糖等を輸入す。上海・香港・廣東・漢口・天津等を其の中心地とす。交通 陸路の交通は、古來馬車・轎等の便をかりしが、近來日・露・英・獨人等の經營によりて鐵道大に發達し、京漢鐵道は

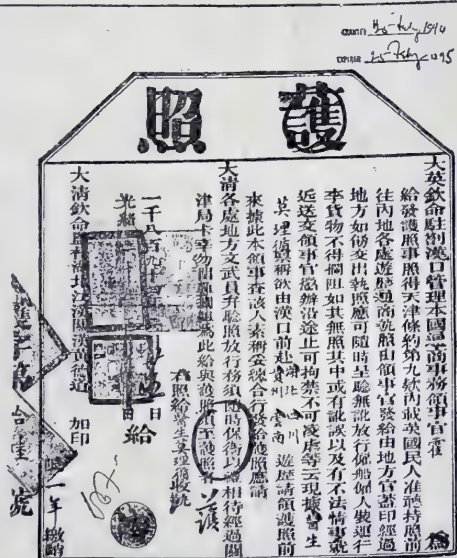
鐵道哩數 四千餘哩（滿洲に於ける日露兩國のものをもくまず）

附 清國下 勞 外人旅行

すでに全通し、將來粵漢鐵道と共に、南北支那を縦斷すべし。其の他山東・滬寧・京奉・京張・津浦等の既設線あり。水路の交通も、次第に開け、我が日清汽船會社・日本郵船會社・大阪商船會社・英獨等の汽船會社、及び支那の招商局は、揚子江及び沿海の交通を司どる。

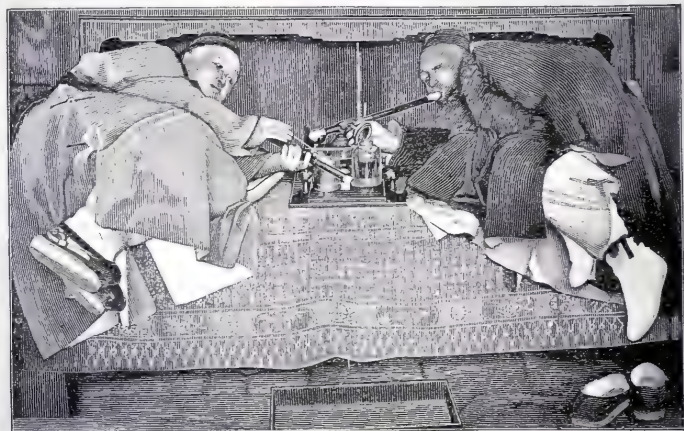
隋煬帝のつくりしと稱せらるゝ大運河は、天津より杭州に至り、其の長さ一千二百料に及び、南北支那を連絡する交通路なりしが、今は小舟を通じ得るにすぎざる所あり。

道路は支那本部以外の地は固より一般に不完全なり。



本邦在留外人三分の二は支那人なり

阿片喫



ース族多し。其の他、新疆省に土耳其族、蒙古地方に蒙古族、西藏地方に西藏族あり、又雲南省邊には苗族住す。

六住民 四億三千萬即ち世界全人口の約四分一を有す。支那本部、特に揚子江岸及び南支那沿岸一帯は、人口最も稠密なり。されば海外に移住せるものも、其の數甚だ多く、世界各地至らざる處なし。就中、暹羅、馬來群島に最も多く、亞米利加これにつぐ。

人種は、蒙古種にして、漢族最も多數を占め、支那本部に住し、政治商工業上の實權を占む。滿洲にはツング

雲南市街

蒙古の喇嘛僧



従つて、言語の種類も甚だ多く、支那本部にて上流社會に行はるゝ官話にも、北京官話、南京官話等の別ありて、國民統一上不便少からず。

支那本部には道教、佛教盛なれど、上流社會は一般に儒教を奉ず。又蒙古、西藏には喇嘛教盛にして、新疆省には回教行はる。基督教も、近來各地に行はるれども、未だ盛ならず。



教育は、古は官吏養成を目的とせしが、近時これを改良し、多くは其の範を我が國にとり、大中小學堂・師範學堂等の制を設け、外國の教育者を聘し、漸次面目を一新しつゝあり。

七、政治 支那は、宇内の舊國にして、我が徳川氏のはじめ、愛親覺羅氏に統一せられ、清と稱する帝國なりしが、明治四十四年揚子江流域に騷亂起り、忽にして全國に彌蔓し、つひに四十五年、共和政となる。大總統ありて行政を統べ、其の下に國務總理あり、外交・内務・財政・教育・司法・農林・海軍・陸軍・工商・交通の十部を置き、各部に總長ありて、國務を分擔す。又各省には都督あれど、秩序の回復未だならず。今後の形勢、豫期すべからず。

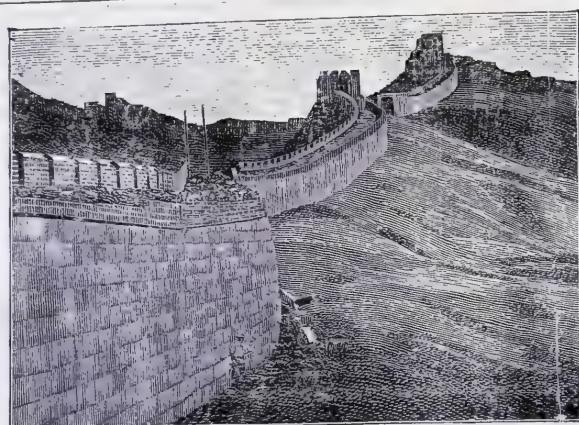
第一節 支那本部

支那本部は、地形上、北部・中部・南部の三となす。

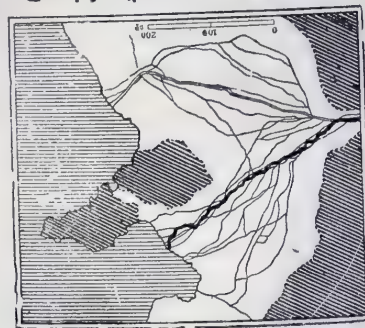
圖 黃河河道の變遷

圖 萬里の長城

一、北部 主として、黃河流域地方にして、北は萬里長城及び陰山山脈によりて、滿洲・蒙古と境を接す。



古來の帝都は、概ね此の内にあり。萬里長城は大運河と共に支那の二大工事と稱せらる。西は甘肅省の嘉峪關より起り、東は直隸省の山海關に至る。長さ三二〇〇軒、其の大部は、秦の始皇帝が北方蠻民の侵入を防がんため築さしものなれども、今は頽廢し、處々に關を設け、旅人を檢査し、出入の貨物に課税するにすぎず。

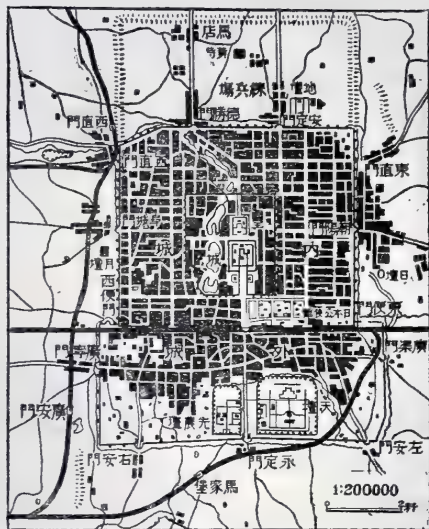


直隸省は、渤海灣の西岸にあり、省城

我が公使館は北京にあり

北京市街及附近

天津市街



内外二城にわかる。内城には、共和國官衙あり、外城は商業盛なり。北西に張家口あり。蒙古を経て西比利亞に到る門戸にあたり、羊毛皮革の取引盛なり。北京より京奉鐵道によりて、南東に向へば

を保定府といふ。支那の首府北京(八十)は、省の中



黄土地方の景

天津(八十)あり。白河の下流、大運河の會する處にあり、北清第一の開港市にして羊毛、磚茶の取引盛なり。秦皇島は不凍港にして、開平炭を輸出す。山海關は京奉鐵道の一驛なり。山東省は、繭、紬、大豆の産多く、人口また稠密なり。域内に、五岳の一たる泰山あり。省城を濟南といふ。其の南、曲阜には孔子の廟あり。芝罘(烟臺)は渤海の咽喉を扼する開港場なり。



上海の埠頭



山西省は、地味瘠せたれども石炭多し。省城を太原といひ、京漢鐵道に連絡する鐵道あり。河南省は山西省の南に位し、省城を開封といふ。河南府は洛水の北にあり。附近に洛陽の遺跡あり。渭水の流域は、陝西省にして、省城を西安府(百)といふ。古の長安、これなり。甘肅省は、其の西に位し、省城蘭州府は、西部亞細亞との交通の要衝にあたる。

二、中部 揚子江流域の豊沃なる地方なり。

上海に我が總領事駐在す

上海及び附近



生絲茶の輸出多く、又近來綿絲紡績盛となれり。

省城江寧(二十萬)は一に南京といひ、江岸に位す、附近に古跡多し。鎮江(十八萬)は大運河と江との會點にある開港場にして、絹の産あり。

浙江省の省城を杭州(三十萬)といふ。錢塘江にのぞみ、海嘯を以てあらはる。寧波(四十萬)は我が國史に其の名高し。江を溯れば、蕪湖、省城安慶あり。ともに安徽省に屬す。

江蘇省は、浙江省と、ともに、揚子江の河口を占め、此の國第一の米生絲の産地なり。上海(六十萬)は、吳淞より黃浦江を溯ること、十一海里的處にある開港場にして、此の國貿易の中心をなし、

圖解 漢陽の大別山より漢江及び漢口の市街を望みし景

圖解 漢口・武昌・漢陽附近



九江は、江西省の開港場にして、茶の輸出多し。景德鎮は陶器の産に名高く、省城南昌附近よりは紙の産多し。湖北省に入れば漢口（八十萬）あり、漢江と江との會點に位し、漢陽、省城武昌と鼎立し、京漢、粵漢鐵道の起點にして、貨物の集散夥しく、茶、綿の輸出盛なり。漢陽には壯大なる製鐵所あり。宜昌も、開港市にして、現在長江汽船航路の終點たり。湖南省の省城を長沙といふ。岳州は、洞庭湖の



圖解 揚子江の風景

揚子江に注ぐところにありて、此の省の咽喉をなす。四川省は、揚子江の上流に位せる盆地にして、米、高粱、阿片等の農産多く又蠶絲に名あり。省城を成都といふ。重慶は、嘉陵江の揚子江に會するところにある開港場なり。四川省の南に、雲南、貴州の兩省あり。土地不毛にして、苗人多し。ともに同名の省城を有す。此の邊、又鑛産多く、佛領印度支那、英領バルマに近き邊要の地なり。



三、南部 主として南支那海斜面を云ひ、多くは珠江の流域

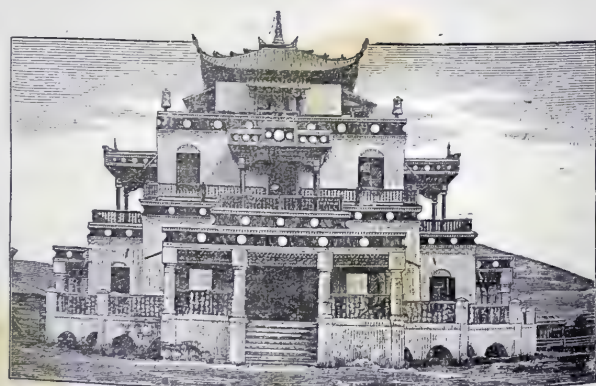
福州の景



にあたる。
福州(六十萬)は福建省の省城にして、我が臺灣の對岸にあり。閩江の下流に位する開港場にして、漢口・九江と共に茶の三大輸出港なり。附近に有名なる馬尾造船所あり。厦門(十一萬)は、我が臺灣の淡水港と交通盛なる開港場にして、又海外出稼人の重要門戸なり。省城廣東(百萬)は珠江の三角洲にあり、南部第一の都會にして、絹織物茶の輸出多し。廣西省の省城を桂林といふ。龍州は佛領印度支那に近き貿易場なり。海南島には開港場瓊州あり。

第二節 蒙古

蒙古の喇嘛寺



蒙古は、ゴビ沙漠によりて、内外蒙古の二部に分たる。土地不毛にして、土人多くは遊牧を事とす。庫倫は外蒙古の中心にして、壯麗なる喇嘛教寺院あり、商業・宗教の中心をなす。賣買城は木柵によりて、露領西比利亞のキフタに接し、茶の取引盛なり。

第三節 新疆省

新疆省は支那の西端にあり、天山山系によりて、天山北路(ジウンガリア盆地)・

天山南路(タリム盆地)の二部となる。南路は、タクラマカン沙漠中央を占め、ヤルカンド・ホタン・カシガル等の都邑、其の縁邊にあり。ホタン附近よりは玉及び砂金を産す。北路

は支那本部と西域との交通の要路たり。ウ・ル・ム・チ(迪化府)は省城所在地にして、クルヂア(伊犁)は露西亞國境に近き要地なり。

第四節 青海

青海は支那の略中央を占め、崑崙山系域内を通じ、土地不毛にして住民少し。有名なる鹹湖青海は其の東部に在り。

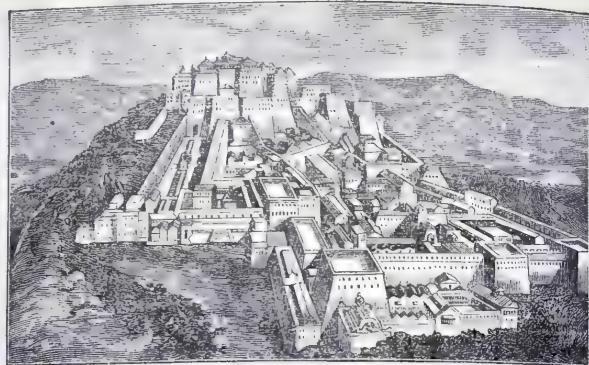
第五節 西藏

西藏はヒマラヤ、崑崙兩山系間にある世界第一の大高原にして、域内にはトランスヒマラヤを始め、幾多の山脈連亘し、稍開けたるは藏布河流域のみ。土人の過半は僧侶にして、犛牛・羊・



西藏人の風俗

拉薩に於ける喇嘛教の大本山



麝香等は主なる輸出品なり。首都拉薩は、藏布河の支流の沿岸にありて、壯麗なる達賴喇嘛の宮殿あり。支那政府は此の地に官吏を派して、其の内政を監督す。亞東は印度境上に近き貿易市なり。

第六節 列國の領地及租借地

威海衛は、山東半島の北岸にあり、前面に劉公島を控へ、天然の良港なり。二十七八年戰役までは北洋水師の軍港なりしが、今は英國の租借地となれり。膠州灣は山東半島の南岸にあり。都會を青島といひ、灣の

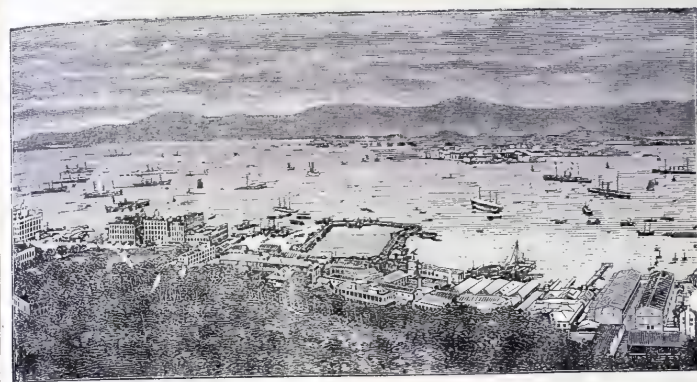
東端にあり。獨逸これを租借して、商港及び東洋艦

膠州灣

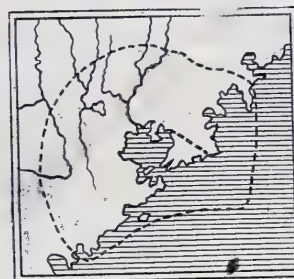
膠州灣の青島

香港ビクトリアの光景
對岸は九龍

香港に我が總領事及び商務官駐在す



隊の根據地となし、且つ青島より濟南府までの鐵道を布設し、其の沿道の鑛山採掘權を得たり。
香港は廣東灣内の一小島にして、阿片戦争の結果英領地

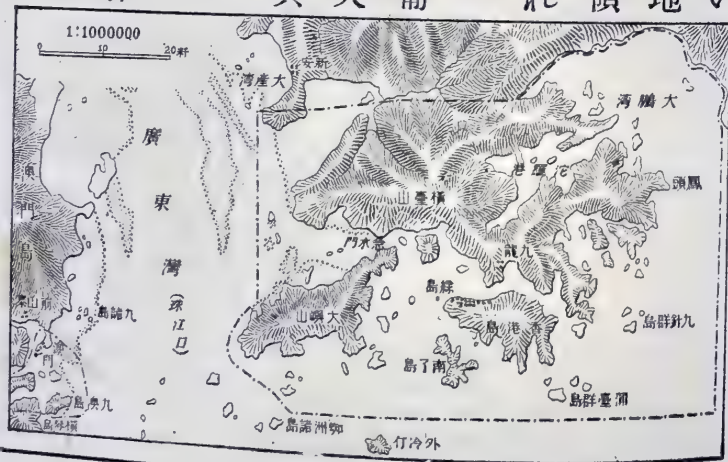


香港及び澳門附近

となれり。港市をビクトリアといひ、自由港にして東洋貿易の中心地なり。對岸の九龍地方も、英國の領地にして、附近一帯は租借地となれり。英國東洋艦隊の根據地なり。澳門は廣東灣の南西海岸にある葡萄牙領にして、昔は我が國にては天川と稱し、盛なる港なりしが、今は其の繁華を香港に奪はれたり。廣州灣は佛國の租借地なり。

第七節 本邦との關係

本邦と支那とは、同文同人種の國にして、然も一葦帶水を隔つるのみな



れば、古來より極めて密接なる關係を有す。我が國在留外人の六割は支那人にして、其の數一萬に近く、我が國より彼の地に在留せるもの、數は三萬人に近く、天津・蘇州・杭州・沙市・福州・漢口・厦門・重慶等には、我が專管居留地あり。日支貿易は、近時大いに進歩し、我が貿易額の二割を占む。重要輸出品は、綿絲・石炭・燐寸・精糖・金巾・洋傘・銅・水產物等にして、其の額九千萬圓にあまり、輸入總額は七千萬圓に近く、生綿及び繰綿・豆類・鐵・粗製糖・苧麻羊毛・革類等を重要輸入品とす。在支那本邦總領事館數は、十にして、在外本邦總領事館數の二分の一弱にあたり、領事館は、其の數十七にして、在外領事館總數の三分の一弱にあたる。

本邦總領事館所在地 哈爾濱奉天(新民府分館)間島(局子街)頭道溝琿春各分館 天津上海漢口廣東香港

本邦領事館所在地 齊々哈爾吉林長春鐵嶺遼陽安東牛莊芝罘蘇州杭州南京長沙沙市重慶福州厦門汕頭

第三章 亞細亞洲露西亞

亞細亞洲露西亞は、亞細亞洲の北部一帯の地を占め、其の面積大陸の四割にあたる。露西亞政府は、これを行政上、西比利亞・中央亞細亞・カフカズの三に大別す。

第一節 西比利亞

一、位置・境域 支那の北方より、北極洋に緩斜する北部亞細亞の大部分を占め、西は歐羅巴露西亞に接す。面積千二百餘萬方呎、乃ち我が國面積の約二十倍にあたれど、人口は八百萬に足らず。

二、地勢 南境最も高く、北西に向ひて低下し、地勢自ら四帶

面積
千二百四十四萬
方呎
人口
七百八十八萬

となる。

(一)高地帶 最南部にありて、支那との境をなせる山嶽又は高臺地方なり。即ちアルタイ山脈ヤブロノイ高臺スタノボイ山脈等を其の主なるものとす。又日本海沿岸にはシホタ山脈あり。カムチャツカ半島は山概して高く、殊に火山多くして、其の脈我が千島諸島に連絡せり。

(二)草野帶 大約北緯五十五度以南の平野にして特に南西部に發達せり。

(三)森林帶 草野帶以北、北緯六十五度邊までを云ふ。樺、松、樅等の密林多く、又毛皮獸多し。

(四)凍土帶 最北部にあり、低平にして氣候寒烈なるがため、土地凍結し、夏期には、其の表面僅かにとけて、雜草生じ水禽來り遊ぶ。

河流は多く北極洋斜面に流る。オブ・イニセイ・レナの三大河は、其の主なるものなり。たゞ黒龍江は、東流して、松花江、烏蘇里江等をあはせ、間宮海峡に注ぐ。何れも水勢緩なれど、冬期氷結の不便あり。湖は中部の南境に近く亞細亞第

バイカル湖岸の鐵道



一の淡水湖バイカルあり、イニセイ河支派の上流をなす。北海岸は、オブ・タイミル半島等の屈曲ある外、出入乏し。太平洋岸には、カムチャツカ半島突出し、樺太島横はり、ベーリング海、オホーツク海等をつくる。海岸一帯不凍港を見ず。

氣候・生業 大陸性にして、夏は短くして暑く、冬は長くして酷寒なり。

附近は、世界の寒極と稱せらる。

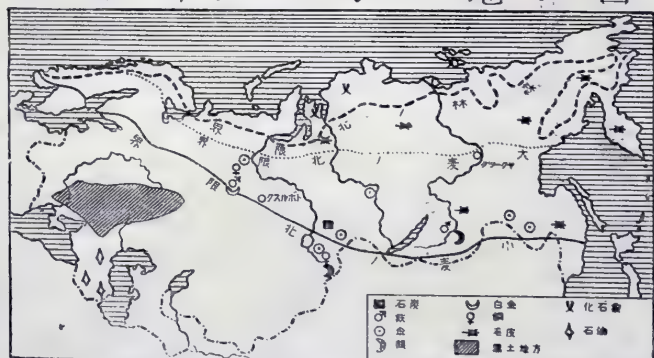
凍土帶附近は、一般に不毛なれども、ニシベリア諸島と共に、マンモースの牙を出す。森林帯には樺、樅等の良材を出

西比利
亞の天產物

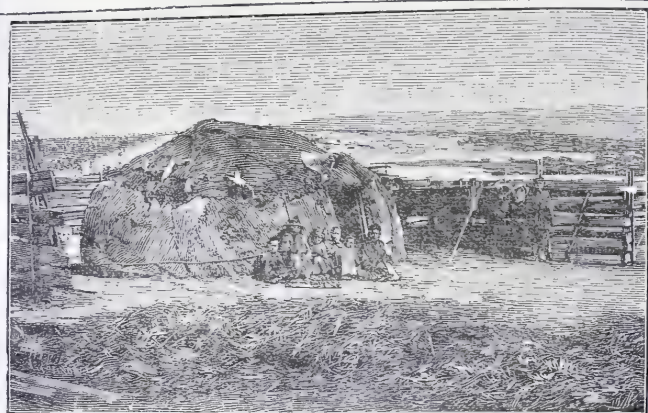
コヤンドル諸島は
海獸の繁殖場なり

し、狐、貂等の毛皮獸多し。農牧業は南西部を最とし、小麥、牛酪の產多し。アルタイ山には金多く、其他銀、石炭、石墨も各地に產す。東部の近海は世界三大漁場の一にして、鰵、虎、鰻、鰔、鯨等の海獸及び鯨、鰹等少からず。河川には鮭、鱒多し。工業は未だ盛ならず。内地商業は、今なほ年市により行はること多く、外國貿易は、浦鹽斯德・ニコライエフスク・キフタ等を其の中心となす。

四、交通 内地には車馬、橈等多く用ゐられ、夏季には水路の交通自在なり。西比利亞鐵道は、一九〇一年の起工にして、チリアビンスクに起り、オムスク・クラスノヤルスク・イルク



プリア
ト人の家



ツク等をすぎ、カイダロボにて東清鐵道を出し、哈爾賓を経て浦鹽斯德に通ず。かくて極東と歐羅巴との距離は、著しく短縮せられたり。

又浦鹽斯德よりハバロフスクに至る線路あり。近時露西亞政府は、此の地よりストレチンスクに至る所謂黑龍江岸鐵道の工事を急ぎつゝあり。

五、住民 住民の密度は甚だ少く、一方糶につき〇、五にすぎず。多數は露西亞本國より移住せしスラブ種にして、希臘教を奉じ、採鑛・農業に従事す。土人は其の數少く、フン人・プリアト人・ヤクト人等を、其の主なるものとす。

支那と
露西亞との境
界

六、沿革政治 露西亞の西比利亞遠征をはじめたるは、西曆十六世紀イバン四世、コサックの酋長イェルマクをして、オブ河流域のシビル汗をうたしめたる時にあり。かくて漸次其の國境を東に進め、ペテロ大帝の頃には、清國と境を接するに至りしが、清の聖祖は使をつかはして、兩國の使臣をネルチンスクに會合せしめ、外興安嶺を以て兩國の境界とせり。しかるに、清國は其の後長髮賊の亂等のため、外を顧る暇なきに乘じ、露西亞は、漸次黒龍江岸を占領し、愛琿條約(一八五八年)にてこれを確定し、更に英佛聯合軍の北京に侵入せし時、其の間に斡旋して、烏蘇里江東の地を得、浦鹽斯德市を建設せり。ついで我が國と交渉して樺太島を收め、更に滿洲方面



ハバロ
フスク港

我が總領事館所在地なり

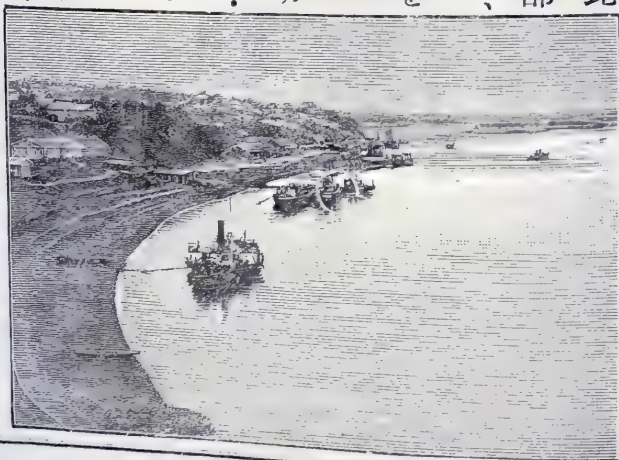
に手をのばさんとして、三十七八年戰役を惹起し、樺太の南半を、我れにゆづるに至れり。現今は行政上、黒龍江地方、東部西比利亞、西部西比利亞とに大別し、西部西比利亞は本國內務省の直轄とし、他の二部には總督を置きてこれを治む。

七、地方誌 黒龍江地方は沿海州・カ

ムチヤカ州・黒龍江州・外バイカル州・樺太島北部をふくみ、ハバロフスク

(四)に總督駐在す。

浦鹽斯德(九)港は、ペテロ大帝灣内に、ある西比利亞第一の開港場にして、



又露西亞西比利亞艦隊の根據地なり。冬期氷結すれど、碎氷船の設あり。西比利亞大鐵道これより起り、又露國義勇艦隊は東亞諸港及び本國オデサ港との間を航海す。我が敦賀との交通も、日を追うて盛大となれり。ニコライエフスクは、黒龍江の河口に位し、漁業の中心なり。カムチヤカ半島は山多く、ペトロバウロフスクを主邑とす。樺太島は、明治三十八年南半を我にゆずりたれば、今は北半のみ此の國の領なり。間宮海峽に面し、其の主邑アレクサンドロフスク港あり。ブラゴベシチェンスク(四萬)は、黒龍江の中央に位し、支那の愛琿に近き要地にして、此の附近には金坑多く、黒龍江州の首府なり。チタ(四萬)は、外バイカル州の首府にして、キフタは支那の賣買城と接し、茶の取引大なり。

東部西比利亞は、ヤクツク州・イルクツク・イニセイスクの二省を含み、アンガラ河に沿へるイルクツク(八萬)に總督駐在す。ヤクツクはレナ河沿岸にあり。毛皮象牙の取引盛なり。イニセイスク省にはクラスノヤルスク(六萬)あり。西比利亞鐵道の一驛なり。

西部西比利亞はトボルスク・トムスクの二省を云ひ、オブ河の流域にあたり、麥の産多し。トムスク(十萬)は西比利亞有数の都會にして、大學及び博物館の設あり。西比利亞鐵道とは支線にて連絡す。トボルスクはトボルスク省の首府なり。

第二節 中央亞細亞

一、**地文** 裏海の東、西比利亞の南西にあたり、面積我が國の五倍にあまる。南東は高けれども、中央にはツランキルギ

面積
三百四十五萬方
人口
九百六十萬

薩馬ル
カンド市街



スの低地をつくり、アラル海・バルハシ湖等あり、アム河・シル河は前者に伊犁河は後者に注ぐ。氣溫の劇變多く、降雨少ければ、河畔の地以外は沙漠又は草野をなすところ多し。キルギス人は、これ等の草野を利用し、馬・駱駝・牛・羊等を養ひ、河畔には土耳其族土着して、米・綿・果物等をつくる。

ニ人文 全土をステップ・トルキスタン・外カスピの三地方及びヒバ・ボハラ^(十九萬)の二屬國とす。タシケント^(十九萬)はシル河流域にあり。トルキスタ

裏海附
近の鐵道系



面積
四十七萬方
人口
一千一百萬

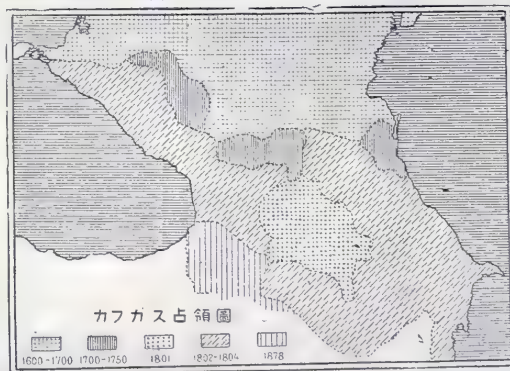
ン總督の駐在地にして、羊毛・生絲の產多し。サマルカンド^(八萬)は帖木兒の舊都にして、附近に壯大なる墳墓あり。オムスク^(九萬)はステップ總督の駐在地なり。露西亞政府は、軍事上の必要より、外カスピ鐵道を敷設せり。即ちクラスノボドスクに起り、メルフにて支線をアフガニスタン國境に出し、本線は更にボハラ・サマルカンドを経てタシケントに至る。タシケント・オレンブルグ間には中央亞細亞鐵道ありて、歐羅巴露西亞に連絡す。

第三節 カフカズ

黒海・カスピ海にはさまれ、カフカズ山脈によりて、内外カフカズの二部となる。

カフカ
ズ占領圖

カフカズ山脈は、高峻にして交通不便なれど、今は鐵道其の兩側に通ず。住民は種族多けれども、特に有名なるはカフカズ族にして、容貌の美なるを以て聞ゆ。内カフカズは草野にして、産物少けれども、外カフカズは溫暖にして小麥・葡萄・茶等の産物あり。



バク
に於ける石油
噴出の光景



首府チ・フリス(二十萬)は、亞細亞露西亞第一の都會にて總督駐在す。バク(十九萬)はカスピ海岸にありて、裏海艦隊の根據地なり。附近は米國に

カフカ
ズ族の風俗

面積
百八十萬方
人口
一千七百萬



つげる石油產地とす。バツ・ム(三萬)は黒海沿岸にありて、石油の大部分輸出港なり。

第四章 亞細亞土耳其

土耳其帝國の一部にして、本洲の西端に位し、アルメニア・小亞細亞・メソポタミア・シリア及び紅海沿岸に分たる。

アルメニア イラン高臺につらなる高原地にして、有名なアララット山あり。

小亞細亞 黒海・地中海にはさまれたる半島にして、タウルス山脈南岸に聳え、一帯の高原をなし、葡萄・生絲の産あり。土耳其人多けれども、商權は海岸に住する希臘人の手にあり。

死海

湖水鹽分多く魚族
生息せずこれ死海
の稱ある所以なり

ス・ミ・ル・ナ・(三十萬)港は多島海に面し、乾葡萄の輸出多し。
キ・ブ・ロ・ス島は、一八七八年(伯林會議)以來英領となれり。
ニ・メ・ソ・ポ・タ・ミ・ア チ・ダ・リ・ス・エ・ウ・フ
ラト兩河の流域にあり、昔時文化の
燦然たりし地方にして、バ・ビ・ロ・ン・ニ
ヌ・アの遺跡今なほ尋ぬべし。バ・グ
ダ・ト・(十八萬)は中古回教國の首都た
りし處にして、今なほ此の地方第一
の都會なり。

ミ・シ・リ・ア 地中海の東岸一帯の地
にして、有名なるヨルダンの溪谷あ
り。其の最低部を死海とす。ダ・マ
ス・ク・(三十萬)は此の地方商業の中心地



ペイル
トの埠頭

イエ
ルサレムの市街

面積
三百七十三萬方
料



にしてペイルト港
(十五萬)を咽喉とす。
イエルサレム(八萬)は猶
太國の舊都にして、
基督の墳墓あり。
附近のベテレヘム
は其の誕生地にし
て、ともに同教の靈
地とす。

第五章 亞刺

比亞

世界最大の半島にして一般に高臺をな



圖解 亞刺比亞人の風俗



す。内地は酷熱にして雨少く、沙漠多し。海岸地方には棗椰子珈琲等の産あり。殊に馬と護謨と是有名なり。紅海岸と波斯灣岸の一部とは、土耳其帝國に屬し、アデン附近は英領なり。オーマ

圖解 アデン及び其の附近

ンは酋長國にして、英吉利の保護をうく。其の他各地に酋長ありて統一せず。マッカ(八)は回教祖ムハメットの誕生地にして、メヂナ(四)は其の墳墓の地なれば、巡拜者常に絶えず。アデン(四)は、バベルマンデブ海峡に近く、紅



海の咽喉を扼す。其の附近なるペリム島と共に英領なり。波斯灣内のバーレン諸島には、眞珠の産あり。

第六章 イラン地方

イラン地方は、略、ヒンヅークシエルブルズ山脈以南の高臺なり、内地は酷熱にして、沙漠をなし鹹湖多し。高臺の邊緣の地は、稍肥沃にして穀物・果實・綿・阿片等の産あり。住民はイラン族にして、回教を奉じ遊牧を業とす。政治上波斯・アフガニスタン・ベル

圖解 テヘランの市街圖

面積
百六十萬方呎
人口
九百五十萬

一、波斯 波斯はイラン地方の西部を占め、其の面積我が國の二倍に餘る、立憲君主國なり。國民は一般に農牧をつとめ、



又絹織物・護謨の産あり。首府テヘラン(二十萬)は北方山地にあり。タブリーズ(二十萬)は、カフカズに近き商業の中心地とす。

此の國は、英・露兩強國の間にはさまれ、其の國力平衡上、僅に獨立を保てるにすぎず。近時英露間に協商成り、此の國の北部は露國、南東部は英國の勢力範圍と定めたり。

ニアフガニスタン 高臺の北東部を占め域内山多し。カブールの酋長最も勢力あり。此の地も、英・露勢力の衝突地にあたり、僅かに其の獨立を維持せり。

ミベルヂスタン 北東部は英國の直轄領にして、他は其の保護地なり。後者に於てはケラットの酋長最も勢力あり。

第七章 印度

面積
四百五十九萬方
人口
三億一千萬

一、位置・境域 印度洋に突出せる大半島にして、錫蘭島を南端に控へ、東をベンガル灣と云ひ、西を亞刺比亞海と稱す。面積は我が國の七倍に近し。

二、地勢 地勢上、ヒマラヤ山地・印度平原・デカン高臺の三部に分つ。

ヒマラヤ山脈は、北方に聳立せる一大牆壁にして、其の峠の如き、何れも數千米を超え、交通甚だ不便なり。此の山中にネパール・ブータンの二獨立國あり。

印度平原は、インドス・ガンガ・ブラマプトラ三大河の流域にあたり、西方少許の沙漠地をのぞく外は、土地肥え雨量多く農産に適す。特にガンガ河は、ヒマラヤ山中より發し、此の平原を東流し、ブラマプトラ河と共に一大三角洲をなして、ベンガル灣に入る。交通灌漑の利極めて大なり。

デカン高臺の一部は火山岩臺地に屬す

圖解 印度に於ける雨量の分布

季節風弱く降雨少き時はしばしば大飢饉を起すことあり

デカン高臺は、印度平原の南にあり、東ガッツ山脈・西ガッツ山脈に挟まれたる三角形をなせる臺地にして、綿を産すること多し。土地は東に緩斜すれば、河川の多くは東流す。海岸は、單調にして良港に乏し。西岸には、カッチ灣・カンベイ灣等あれど、沿岸は遠淺なり。間には、アダム橋あり。

三、氣候 大部分熱帶に入るが故に、一般に高温なれども、北方山地は溫和にして、夏季の避暑地たるに適す。又夏季は南西季節風ありて、ヒマラヤ山地及びマラバル海岸等に多量の



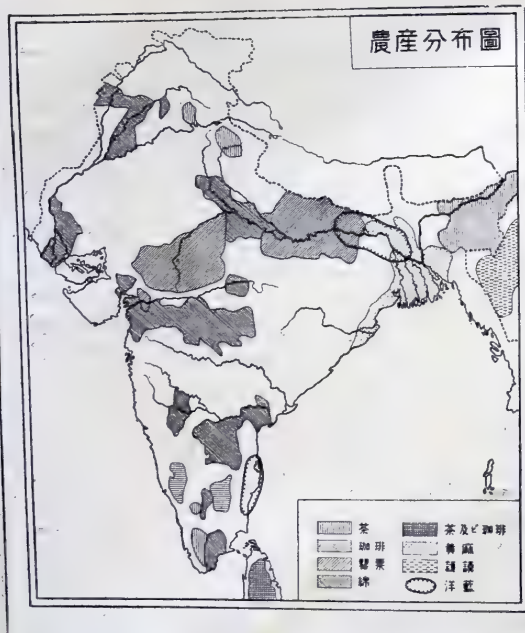
圖解 印度に於ける農産物の分布

濕氣をもたらし、殊にブラマプトラ河下流地方は、雨量甚だ大にして、世界の最多雨地あり。

かく濕熱なるを以て、動植物の生育甚だ盛にして、榕樹・チーク樹等の大森林あり、又象・虎・豹等の野獸をはじめ、鰐魚・毒蛇等少からず。

四、生業交通 印度は、世界屈指の大農産國にして、米・麥・阿片・綿・茶・珈琲・藍・黃麻等の産極めて多し。綿絲紡績も近時隆盛に赴き、東洋市場に於ける我が勁敵なり。

外國貿易は、近時大に發



孟買に於ける綿の荷造り及び運搬

ヒンドスタニ語はサンスクリット語の轉訛せしものなり



達し、一年の貿易額二十五億圓に達す。其の取引國は、英本國を主とし、支那これにつぐ。

主に綿・黃麻・茶・阿片等の原料品を輸出し、綿布・機械・砂糖等の精製品を輸入す。英人施設の下に、鐵道大に發達し、其の延長三萬哩にあまり、河川・運河と共に交通を助く。

五、住民 三億一千萬の住民あり。密度の大なるを以て著る。

今はデカン高臺の一部に住するのみ。主なるものはヒンヅ種にして、ヒンドスタニ語を用ゐ、僧族・土族・平民・奴隸の

四階級に分れ、其の別甚だ嚴なり。

此の地方は佛教興隆の地にして、釋尊の遺跡多けれど、佛教は現時錫蘭島に行はるゝのみ。住民の多數は、ヒンヅ教を奉じ、回教信者これにつぐ。

六、沿革政治 今より數千年前は、此の地の文明大に進歩せしが、其の後漸く振はず。第十六世紀の初に至り、帖木兒の裔バベル莫臥兒帝國を興し、アクバル大帝に至り、四隣を征服し、勢を張らんとせしが、死後また振はず。之より前、第十五世紀の終より、葡人・西人・蘭人・英人・佛人等相つぎて此の沿岸に來り、各國人の間に競争盛に起りしが、英人は漸次他國人を壓し、莫臥兒帝國を亡ぼし、ビクトリア女王は印度皇帝と稱するに至れり。其の後緬甸を合せ、ベルチスタンを加へて、印度帝國と稱し、皇帝の任命せる總督デリーに駐在し

カルカッタ市街及び其の附近

人口二十萬以上の都會九
十萬以上二十萬以下の都會二十

て、これを統治す。帝國は、更に直轄地と保護地とよりなり、前者は總督の任命せる知事これを治め、後者には王ありて、唯英人官吏の監督をうく。錫蘭島は英國殖民大臣の管轄に屬し、印度帝國の一部をなさず。セ、都會 ガンガ河流域は土地よく開け、人口最も密にして都會亦多し。カルカッタ(百二十萬)はガンガ河の三角洲にあり、從來首府たりし所なり。黃麻及び米の貿易盛にて、全印度貿易總額の約三分一を占む。我が總領事館あり。パトナ(十四萬)はガンガ河汽船航路の終點にして、阿片米藍の大市場なり。附近にブダガヤあり、釋尊悟道の地として名あり。ベナレス(二十萬)はヒンヅー教の靈地なり。デリー(二十萬)はガンガ河の上流にあり、莫臥兒帝國の舊都と



孟買市街

孟買市街及び其の附近

孟買に我が領事館あり



カシミル

織を産す。
半島の西海岸には孟買(九十萬)



して名あり。印度皇帝の戴冠式は此の地にて行はれ、近時印度の首府となれり。ラホール(二十萬)は印度河の上流にありて、小麦を集散し、其の北西のペシワール(十萬)はアフガニスタンに通ずる要地なり。シムラは印度總督夏期の駐在地なり。カシミル地方にスリナガルあり。

面積
六萬六千方料
人口
二百五十八萬

錫蘭人の風俗

錫蘭島の村落

佛蘭西領
シアンデルナゴ
ル
ボンナシユリ

あり、棉花の大輸出地にして、又紡績業盛なり。東海岸のマ
ド・ラス(五十萬)港よりも、亦棉花を輸出す。』
錫蘭島は北海道より稍小なり。英吉



利の直轄殖民地にしてコロンボ(十六萬)は本島最大の港市なり。島内山多く

して種々の寶石・石墨及び茶を産す。

マナール灣は眞珠の養殖に名あり。

ツリン・コマリは北西岸に於ける要港

なり。

其の他、海岸地方には、佛・葡兩國の殖民
地多けれども、其の區域何れも小なり。



カリカル
ヤナオン
マエ
葡萄牙領
ゴア
ダウ
ダマン

ハ、我が國との關係 古代に於ては、支那・朝鮮を媒介として、
佛敎其の他此の地の文明を我が國に輸入し、開化を助けた
る事少からず。

近時我が國は、此の地より綿米等を輸入し、羽二重・メリヤス・
樟腦等を輸出す。

日本郵船會社は、孟買航路及びカルカタ航路を設け、主とし
て此の地方よりの棉花運送をつかさどる。

第八章 印度支那半島

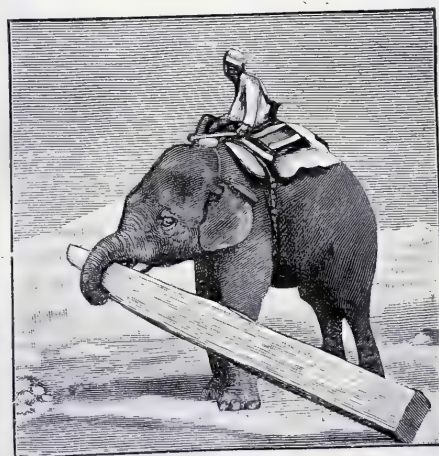
印度支那半島は、亞細亞洲の南に突出する一大半島にして、
印度支那山系南北に縦走し、其の一派長く延びて馬來半島
となり、ベンガル灣と暹羅灣とを分つ。

河流も大抵、山脈に平行して南流するもの多し。メコン河・

象の作業

*我が國にては南京米と稱す

メナム河・サルウィン河・イラワヂ河等を其の主なるものとす。沿岸に平野多く、産物亦少からず。全部熱帯に位し雨亦多し。平地には多量の米^{*}を産し、森林にはチーク材多く、馬來半島は錫及び護謨を以てあらはる。住民は主として、印度支那族なれども、支那人、馬來人及び雜種少からず。多くは佛教信者なり。



面積 六十七万平方
人口 一千六百二十萬

一、佛領印度支那 半島の東部を占め、トンキン(東)・コシエンシ(交趾)の二領地と、ラオス(老)・アンナム(安南)・カンボヂア(柬埔寨)の三保護地とよりなる。佛蘭西の殖民地中最も重要なるものなれば、近時廣州灣を租借し、其の防備を固めたり。東京

東京の風俗



面積 六十萬平方
人口 六百七十萬

はソンコイ河流域の地にして、直ちに支那本部に接す。ハノイ(河内)は總督の駐在地にして、又南清經營の策源地なり。鐵道は此地より雲南に通ず。ハイフオン(海防)港は其の咽喉たり。安南の首府をユエ(順化)といふ。沿岸のホンコーヘ・カムランの二灣は三十七八年戰役より有名となれり。サイゴン(西貢)はメコン河の三角洲に位し、コシエンシの首府にして、佛國東洋艦隊の根據地なり、米の輸出多し。カンボヂアの首府をプノムペンといふ。

二、暹羅王國 印度支那半島の中央にあり。チーク材と米

とを主要輸出品とす。家畜には象・水牛多し。

此の國の商權を握ぎれるは支那人なり。君主專制なれども、近時先進國の文明輸入に力をつくせり。軍備未だ整はざれども、財政極めて裕かなり。

首府盤谷(六十三萬)はメナム河に臨み、我が公使館あり。附近に山田長政時代の日本村の遺跡あり。

三、英領印度支那 緬甸及び海峽殖民地・馬來聯邦の三に大別す。

(イ) 緬甸 サルウィン・イラワヂー兩河の流域にして、行政上印度帝國の一部をなす。ラン・グン(二十九萬)はイラワヂー河の三



暹羅の王宮前通り

新嘉坡に我が領事館あり

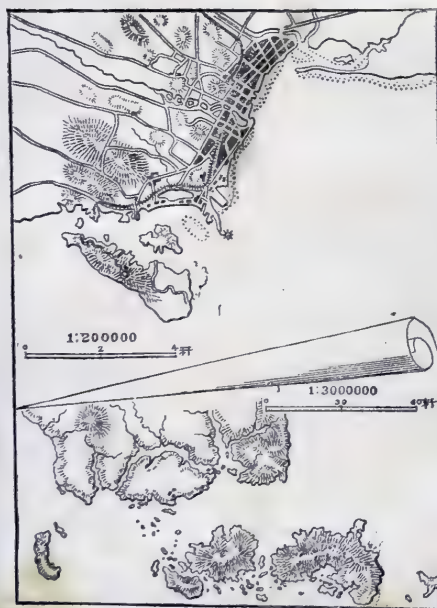
新嘉坡港附近の水上生活

新嘉坡及び其の附近



多・し・坡・南・島

角洲に位し、米・チーク材の輸出多し。マン・ダ・レ・ー(十八萬)は、舊緬甸王國の首府なり。
(ロ) 海峽殖民地 新嘉坡(十九萬)は同名の小島の南岸にあり。東西交通の要衝にあたる。住民は支那人最も

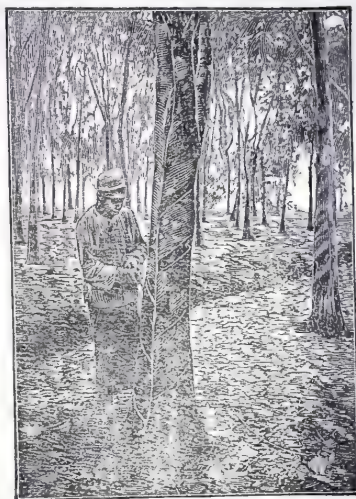


も良港にして前者と共に我が郵船會社汽船の寄港

圖 護謨樹
液採取

馬來聯邦に隣れる
土人州も亦英國の
保護を受く

スンダ海峽のクラ
カトア火山は明治
十六年大破裂をな
し數萬の人命を失
へり



地なり。
(ハ) 馬來聯邦 馬來半島の南部
にある四個の酋長國の聯合せ
しものにして、英國の保護をう
く。錫の産額は、世界第一に位
し、護謨の栽培盛なり。

第九章 馬來群島

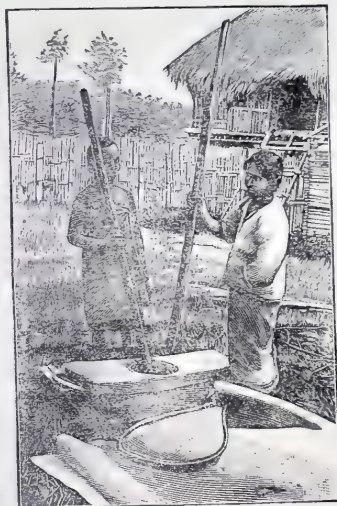
馬來群島は、東印度諸島とも稱し、スマトラ・ジャバ・ボルネオ・セ
レベスの四大島及びフィリピン・モルッカ・小スンダ等の群島よ
りなる。幾多の火山此の列島に沿ひて配列し、特にジャバ島
に其の數多し。

全部熱帯にあれど、海風常に吹きて、氣候を緩和す。又雨量



熱帶地方に於ける植物繁茂の圖

圖 馬來人の風俗



多ければ植物よく繁茂し、特に肉桂・胡椒・丁香等の香料少からず。又、籐・米・サゴ・コブラ・砂糖・煙草・珈琲等の産多く、猩々・極樂鳥の如き、珍奇なるものも少からず。

住民は馬來族最も多く、支那人これにつぐ。多くは回教信者なり。

面積
百九十萬方
人口
三千八百萬

一、蘭領東印度 ジアバスマトラ・ボルネオ(大部)・セレベスの四大島及びモルッカ・小スンダの二群島及びバプアの一部をふくみ、馬來群島の四分の三を占む。
ジャバ島 面積我が本州の六割に過ぎざれども人口三千萬に近し。蔗糖の産世界第二にして、我が國製糖の原料とな

圖 ジャバ島に於ける物産の分布



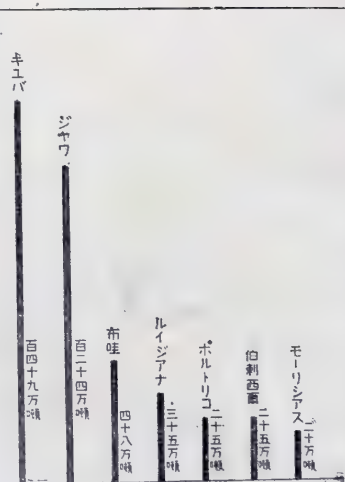
圖 巴達ビア市の街の景

巴達ビアに我が領事館あり

る、幾那も亦世界全産額の七割に及ぶ。其の他米・珈琲・茶・護謨等の産多し。バタビ
ア(十四萬)は北岸に位置し、東印度總督の駐在
地なり。東部にスラバヤ(十五萬)の良港ありて、其の繁華
バタビアをしのぐ。スマトラ島には、石油及び香料の産あり。
附近のバンカ島には錫多し、ボルネオ島は、世界第三の大島にし



甘蕉生
産額比較



て、金・金剛石・燕窩等の産あり、内地は未だよく開けず。
セレベス島は珈琲及び鼈甲(ツノクサ)の産に名あり。』

モルッカ群島は肉荳蔻（豆蔻）子等多く、一に香料諸島といふ。

ニ、英領東印度 ボルネオ島の北部なり。

首府をサン・ダ・カン（カン）といふ。ラブアン島には石炭（炭）の産あり。

三、米領東印度 フリピン群島にして、我が臺灣とは僅かにバシ海峡をへだてゝ相對す。もと西班牙の領なりしが、米西



コブラ
の乾燥

面積
三十三萬方呎
人口
七百六十萬

マニラ
及び其の附近



戦争(明治三十一年)の結果其の領となれり。最も大なるをルソン島といひ、ミンダナオ島これにつぐ。砂糖・煙草・麻・コブラ等の産多し。

マニラ（二萬）はルソン島の西岸にあり。總督の駐在地にして、我が領事館あり。

其の北西のスピク附近には米國太平洋艦隊の根據地あり。海底電線は此の島の東岸よりグアム・ミッドウェー等の諸島を経て桑港に通ず。

ホタン(子関)(Khotan).....	39
勸海(Po-hai)灣.....	24-31
保定(Paoting).....	31
ボハラ(Bokhara).....	54
ボルネオ(Borneo)島.....	80
ホンコヘ(Honkohe)灣.....	74
ホンコン(香港)(Hong-Kong).....	41
ポンヂシェリ(Pondicherry).....	44
ボンベイ(孟買)(Bombay).....	70
輝春(Hunchun).....	9

マ

マカオ(澳門)(Macao).....	42
摩天峯.....	5
マドラス(Madras).....	70
マナール(Manaar)灣.....	70
マニラ(馬尼拉)(Manila).....	81
マライ(馬來)諸島.....	76-81
マライ聯邦.....	76
満州(Manchuria).....	4-10
マンダレ(Mandalay).....	75
満洲里(Man-chou-li).....	10

ミ

南支那海(Nan-hai, China Sea).....	15
南満洲鐵道.....	6
閩江(Min-ho).....	37
ミンダナオ(Mindanao).....	81

メ

メコン(Mekong)川.....	14-72
メソポタミア(Mesopotamia).....	57-58
メソポタミア平原.....	14
メデナ(Medina).....	60
メッカ(Mekka).....	60
メナム(Menam)川.....	72
メルフ(Merv).....	55

モ マウ(モイ)

蒙古(Mongolia).....	38-39
蒙古人種(Mongolans).....	28
蒙古族(Monghol).....	23
モルカ(Molucca)諸島.....	80

ヤ

ヤクーツク(Yakutsk).....	53
ヤクーツク州.....	52
ヤブロノイ(Yablonoi)高臺.....	12-45
ヤルカンド(Yarkand).....	39

ヨ ヤウ(ヨイ)

揚子江(Yang-tz-Kiang).....	14-23
ヨルダン(Jordan)低地.....	58

ラ

雷州(Lei-chau)半島.....	24
洛水.....	23-33
洛陽.....	33
ラオス(Lhasa).....	73
ラッリ(拉薩)(Lassa).....	40
ラブアン島(Labuan I.).....	81
ラホール(Lahor).....	69
ランアン(Rangoon).....	75
蘭州(Lan-chau).....	34

リ レウ(リヨイ)

柳樹屯.....	4
劉公島(Liu-kung-tau).....	40
龍州(Lung-chau).....	38
遼河(Liao-ho).....	5
遼東(Liao-tung)半島.....	5-24
遼陽(Liao-yang).....	8
旅順口(Port Arthur).....	2-3

ル

ルソン(呂宋)(Luzon)島.....	81
----------------------	----

レ

レナ(Lena)川.....	14-41
----------------	-------

正修
編新
世界地理教科書上巻終

外蒙古.....33

タ

大東溝.....6.9
大運河(Grand Canal).....27
タクラマカン(Takla makan).....39
太原(Tai-yuen).....33
大孤山.....1
泰山(Tai-shan).....33
太平洋(Pacific Ocean).....11
タイミル(Taimyr)半島.....46
大冶(Ta-yeh).....25
大連.....2
大和尙山.....1
タウルス(Taurus)山脈.....57
タシケント(Tashkent).....54
タブリーズ(Tabriz).....61
ダマスカス(Damascus).....53
タリム(Tarim)川.....22
タリム盆地.....12.22.39

テ テウ(チ)1

中央亞細亞(Central Asia).....53-54
テグリス(Tigris)川.....57
齊々哈爾(Tchitchikhar).....9
芝罘(Chi-fu).....33
チタ(Chita).....52
チフリス(Tiflis).....53
チベット(西藏)(Tibet).....40
チベット高原.....22
チベット族.....28
張家口(Kalgan).....31
重慶(Chung-king).....37
長沙(Chang-sha).....36
長春(Chang-chun).....9
長白山.....5
朝鮮半島.....15
直隸(Chi-li)省.....31
鎮江(Chin-kiang).....35
青島(Tsing-tau).....41

ツ ツウ

通江口(Tung-kiang-kau).....9
ツラン(Turan)低地.....53

ツリンコマリ(Trincomali).....71
ツングース(Tungus)族.....7.23
ツンドラ(Tundra).....17

テ

デカン(Deccan)高臺.....13.63
迪化府[烏魯木齊](Urumtsi).....39
鐵嶺(Tieh-ling).....9
テヘラン(Teheran).....61
デリ(Delhi).....69
天山(Thian-shan)山系.....12.22
天山南路(Thian-shan-nan-u).....39
天山北路(Thian-shan-pe-lu).....39
天津(Tientsin).....32

ト

東清鐵道.....6
洞庭湖(Tung-ting-hu).....23
東部シベリア(Eastern Siberia).....52
トボルスク(Tobolsk)省.....53
トムスク(Tomsk).....53
トムスク省.....53
ドラービダ(Dravida)種族.....66
トランスヒマラヤ
(Transhima'aya) 山系.....40
トルキスタン(土耳其斯坦)
(Turkestan).....54
トルコ族(Turks).....28
トンキン(東京)(Tongking).....73
東三省.....7

ナ

南京(江寧)(Nan-king).....35
南昌(Nan-chang).....35
南寧(Nan-ning).....38
南嶺(Nan-ling).....22
南山.....2

ニ

ニッシンベリア(New Siberia)諸島.....15.47
ニコライエフスク(Nikolaievsk).....43.52
西ガッツ(Western Ghats)山脈.....63
二道溝.....2

日本海(Sea of Japan).....15
二〇三高地.....13
寧古塔(Ninguta).....9
寧波(Ning-po).....25

ネ

ネパール(Nepal).....63

ハ

バイカル(Baikal)湖.....14.46
買賣城(Maimaitchin).....39
ハイフォン(海防)(Haiphong).....73
バク(Baku).....56
白河(Pei-ho).....32
バグダード(Bagdad).....53
バシ(Bashi)海峽.....81
バタビア(Batavia).....79
バツム(Batum).....56
パトナ(Patna).....63
ハノイ(河内)(Hanoi).....73
ハバロフスク(Khabarovsk).....51
バビロニア(Babylonia).....57
バブエルマンデブ
(Bab-el-Mandeb) 海峽.....60
馬蜂溝.....9
パミル(Pamir)高原.....11
鄯陽湖(Po-yang-hu).....23
バルハシ(Balkhash)湖.....14
哈爾賓(Kharbin).....10
バルマ(緬甸)(Burma).....75
バンカ(Banka)島.....80
漢口(Han-kau).....35
バンコク(盤谷)(Bangkok).....75
凱興湖(Khanka L.).....5
萬里長城(The Great Wall).....30-31

ヒ ベウ(ビ)1

東ガッツ(Eastern Ghats)山脈.....63
東支那海(Tung-hai).....15
ビクトリア(Victoria).....41
鏡子窩.....12
ピナン(彼南)(Pinang).....76
ヒバ(Khiva).....54
ヒマラヤ(喜馬拉耶)

(Himalaya) 山系.....12.22.40
ヒンヅクシ(Hindukush) 山脈.....13
ヒンヅ(Hindus) 種族.....63
苗(Miao) 族.....23

フ

フィリピン(比律賓) 諸島
(Philippine Is.).....81
伏牛山脈(Funiushan).....22
ブータン(Bhutan).....63
福建(Fu-kien) 省.....37
福州(Fu-chau).....37
武昌(Wu-chang).....35
撫順(Fu-shun).....5
ブダガヤ(佛陀伽耶)(Buddha-gaya).....69
プノムペン(Pnom-Penh).....74
ブラゴベシチェンスク
(Blagoveshchensk).....52
ブラマプトラ(Brahmaputra) 川.....14
フランス領インドシナ(佛領印度支那)
(French China).....73-74
汾水(Fen-ho).....23
普蘭店.....1

ヘ

北京(Peking).....31
ペシャワール(Peshawar).....69
ペトロパオロフスク(Petropaul'sk).....52
ベナレス(Benares).....99
ベリリング(Behring)海峽.....11.12
ベイルート(Beirut).....59
ベレヘム(Bethlehem).....59
ペリム(Perim)島.....60
ペルシア(波斯)(Persia).....61-62
ペルシア灣.....15
ペルチスタン(Beluchistan).....62
ペルホヤンスク(Verkhoyansk).....15.72
ベンガル(Bengal)灣.....15

ホ ハフ(ホ)1

法庫門(Fa-ku-men).....9
奉天(Mukden).....8
北嶺(秦嶺)(Pe-ling mts.).....12

エウフラト(Euphrates)川.....	57
粵漢鐵道.....	26
エベレスト(Everest)山.....	13
エルブールズ(Elburz)山脈.....	13
沿海州(Erimorskaya).....	51
煙臺(Yen-tai).....	33

オ アフ(オI)

オブ(Ob)川.....	14.46
オホーツク(Okhotsk)海.....	47
オマーン(Oman).....	60
オムスク(Omsk).....	54

カ クワ

海峡殖民地(Straits Settlements).....	75
カイダロボ(Kaidalovo).....	48
海南(Hai-nan)島.....	33
開平(Ka'-ping).....	31
開封(Kai-feng).....	33
九龍(Kow-loon).....	42
岳州(Yo-chau).....	36
カシガル(Kashgar).....	39
カシミル(Kashmir).....	70
カスピ海(裏海)(Caspian Sea).....	11.14
河南(Ho-nan)省.....	33
河南府.....	33
カピテ(Cavite).....	81
カフカズ(高加索) (Caucasus, Kavkas).....	55.56
カフカズ山脈.....	13.55
カフカズ種族.....	56
カムチャツカ(Kamchatka) 半島.....	15.45
カムラン(Kamranh)灣.....	74
嘉峪關(Chia-yu-kwan).....	31
樺太(Sakhalin)島.....	51
嘉陵江(Chialing-kiang).....	37
カルカッタ(Calcutta).....	68
ガンガ(Ganges)川.....	14
漢江(Han-kiang).....	35
漢口(Han-kau).....	35
甘肅(Kan-su)省.....	34
漢族.....	28
廣東(Canton).....	38

關東州.....	1-4
カンボヂヤ(Cambodja).....	73
漢陽(Han-yang).....	35

キ

キヤフタ(Kjakhta).....	48.52
九江(Kiu-kiang).....	35
季候風.....	64
貴州(Kui-chau)省.....	37
宜昌(I-chang).....	33
キプロス(Cyprus, Kypros)島.....	57
曲阜(Chu-fu).....	33
吉林(Girin).....	9
吉林省.....	9
キルギス草地(Kirghiz Steppe).....	53
キルギス人.....	54
貴陽.....	37
金州.....	4

ク

庫倫[クIロソ](Ku-lun).....	38
クラカタウ(Krakatau)島.....	78
クラスノボドスク(Krasnovodsk).....	55
クルヂヤ(Kuldja).....	39

ケ

京漢鐵道.....	26
京津鐵道.....	32
瓊州(Kiung-chan).....	38
景德鎮(King-te-chen).....	35
ケラット(Kerat).....	62

コ クワウ,カウ,カフ(コI)

ゴア(Goa).....	71
興安嶺(Khin-gan Mst).....	12.22
黄河(Yellow River, Hwan-ho).....	13.23
紅海(Red Sea).....	11
黃海(Yellow Sea, Hwang-hai).....	15
杭州(Hang-chau).....	35
廣州灣(Kwang-chau Wan)灣.....	43
膠州(Kiao-chau)灣.....	41

廣西(Kwan-si)省.....	38
江西(Kiang-si)省.....	35
江蘇(Kiang-su)省.....	34
江寧(南京)(Kiang-ning).....	35
黃埔江(Hwang-pu-kiang).....	34
黒海(Black Sea).....	11
黒龍江(Amur).....	13
黒龍江(Helungkiang)省.....	10
青海(Kuku-nor).....	39
コシエンシIヌ(Cochin-Chine).....	73
湖南(Hu-nan)省.....	36
ゴビ[戈壁](Gobi)沙漠.....	12.22.38
湖北(Hu-peh)省.....	35
コロombo[古山母](Colombo).....	70
崑崙(Kuen-lun)山系.....	12.22.40

サ

サイゴン(柴棍)(Saigon).....	74
サマルカンド(Samarkand).....	54
サルウィン(Salwin)川.....	72
山海關(Shan-hai-kwan).....	32
三姓(San-sin).....	6.9
山西(Shan-si)省.....	33
山東(Shan-tung)省.....	33
山東半島.....	24

シ セウ(シヨI)

シャテルアラブ(Shat-el-Arab).....	14
ジャバ[瓜哇](Java)島.....	79
シム[暹羅](Siam).....	74-75
首山堡.....	8
舟山列島(Chau-shan Is).....	24
上海(Shang-hai).....	34
死海(Dead Sea).....	14
四川(Sze-chuan)省.....	36
支那本部(China Proper).....	30-38
シベリア(西伯利亚)(Siberia).....	44-53
シベリア鐵道(Siberian Railway).....	48
シホタ(Sikhota)山脈.....	45
シムラ(Simla).....	70
小アジア[小亞細亞] (Asia Minor)半島.....	51
沙市(Sha-shi).....	45
シル(Syr)川.....	14
清[支那](China).....	21-44

シンガポール[新嘉坡](Singapore).....	76
新疆(Sin-kiang)省.....	39
盛京(Sheng-king)省.....	7
秦皇島(Chin-wang-tao).....	32
新義州.....	9
秦嶺(北嶺)(Tsin-ling).....	22
珠江(Chu-kiang).....	23.37
松花江(Sungari).....	5
シリア(Syria).....	

ス

スエズ(蘇士)(Suez)地峽.....	11
スタノボイ(Stanovoi)山脈.....	12.45
蘇州(Su-chau).....	44
スマトラ(Sumatra)島.....	76.80
スミルナ(Smyrna).....	57
スラバヤ(Sourabaya).....	79
スリナガル(Srinagar).....	70
スリマン(Suliman)山脈.....	13
スンダ(Sunda)海峡.....	78
スングリア(Sungaria)盆地.....	22.39

セ

西安(Si-ngan).....	34
青海(Kuku-nor).....	39
青海[湖].....	23.39
成都(Chen-tu).....	36
青島(Tsing-tau).....	41
濟南(Tsi-nan).....	33
西部シベリア(Western Siberia).....	53
セイロン[錫蘭](Ceylon)島.....	70
浙江(Che-kiang)省.....	34
セレンガ河(Selengu R.).....	23
セレベス(Celebes)島.....	80
陝西(Shen-si)省.....	34
錢塘江(Tsien-tang-kiang).....	35

ソ サラ(ソI)

蘇州(Su-chau).....	44
外カフカス(Transcaucasia).....	56
外カスピ鐵道 (Transcaspien Railway).....	55
外バイカル(Transbaikal)州.....	52

新編 世界地理教科書 上巻

索引 (数字は頁数)

□ ◯ ◯ 字は文部省の調査表に據る(但し同表になき分は英語にて補充せり)

ア

愛渾(Aigun).....	10
アジア[亞細亞](Asia).....	1-81
アジア=トルコ[亞細亞土耳其] (Asiatic Turkey).....	57-59
アジア=ロシア[亞細亞露西亞] (Asiatic Russia).....	44-56
アダム橋(Adam's Bridge).....	64
アデン[亞丁](Aden).....	67
亞東(Yatung).....	4
アフガニスタン[阿富汗斯坦] (Afghanistan).....	62
アム(Amu)川.....	14
廈門(Amoy).....	33
アラビア[亞刺比亞](Arabia).....	59-60
アラビア海(Arabian Sea).....	15
アラビア半島.....	15
アラル(Aral)海.....	14
アルタイ[亞爾泰](Altai)山系.....	12.45
アルメニア(Armenia).....	57
アレクサンドロフスク (Alexandrovsk).....	52
安徽(Ngan-hui)省.....	35
安慶(Ngan-king)諸島.....	35
安東(An-tung).....	69
アンナム[安南](Annam).....	83
安奉鐵道.....	6

イ 幺

イエニセイ(Yenisei)川.....	14.46
イエニセイスク(Yeniseisk)省.....	52
イエルサレム(Jerusalem).....	59
威海衛(Wei-hai-wei).....	40-41
渭水(Wei-ho).....	23

イギリス領インドシナ

[英領印度支那].....	75-76
イラワヂ(Irawadi)川.....	72
イラン[伊蘭](Iran)高差.....	13.61
イラン種族.....	61
イラン地方.....	61-62
イリ(Ili)川.....	14
イルクツク(Irkut'sk).....	53
イルクツク省.....	52
インド[印度](India).....	62-69
インドシナ[印度支那] (Indo-China)山系.....	13.22
インドシナ半島.....	15
インドス(Indus)川.....	63
インド帝國.....	67
インド半島.....	15
インド洋(Indian Ocean).....	11
陰山山脈.....	22.30

ウ

烏淞(Wu-sung).....	37
ウスリ(Ussuri)川.....	46
内蒙古.....	38
ウラヂボストク[浦蘆斯德] (Vladivostok).....	43.51
ウラル(Ural)川.....	11.14
ウラル山脈.....	11
ウルガ[庫倫](Urga).....	33
烏魯木齊[迪化府](Urumtsi).....	39
雲南(Yun-nan).....	37
雲南省.....	37

エ 二

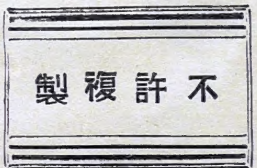
營口[牛莊](In-kau)(Niu-chuang).....	6.9
---------------------------------	-----

世界八大強國々勢比較表(一九一〇年)

日 本	伊 太 利	奥 匈 國	洪 牙 利	奥 地 利	佛 蘭 西	獨 逸	露 西 亞	合 衆 國	英 吉 利	國 名
六七三	二八六	六七六	三三四	三〇〇	五三六	五四〇	二二,五五六	九,三八六	三,二四	面積 平方 里
六八〇	三四五	五・三	二〇八	二八六	三九三	六四〇	一六・二	九・三	四・五	人口 百萬人
六七七	一,〇一五	一八三	七〇〇	一,〇九〇	一,六七三	一,四六三	二,九九五	一,八六三	二,三七一	歳入 百萬元
五三三	九九五	一八三	五四八	一,一一二	一,六七三	一,四六三	二,九九五	一,九〇二	二,三七一	歳出 百萬元
二,六五〇	五,〇九三	二,〇八八	二,二七九	二,二一〇	二,一四六	二,六三二	一〇,三九九	一,八六〇	七,二〇三	國債 百萬元
二五〇	二八三	三九六			六〇〇	六三二	一,三八四	九二	三九三	陸軍 千人
五〇三	五六八	二三五			六三三	七九	六二九	七四〇	二,〇七八	噸艦 千噸
一,六四六	一,〇〇〇	五〇三			一,四四四	二,三四九	七三三	七,五〇〇	二,一五五	噸商 千噸
四五八	六八三	九六七			二,三四三	三,三七七	一,三八三	三,七六八	五,三四二	輸出 百萬元
四六四	一,二五〇	一,一四〇			二,六三六	四,四六七	三,一六	六,七八三	六,七八三	輸入 百萬元
八・三	一・七二	四・五九			四・九五	六・一〇	七・二五	三・九二八	四・一八	鐵道 千 里
全帝國	本國	全國			本國	本國	全露西亞	全露西亞	本國	備考

日六十二月二十年元正大
濟定檢省部文

發行所 (東京神保町) 三省堂書店
電話本局七二八四(一七四) 振替口座東京一五九七番



印刷所 三井印刷部
印發行兼 東京市神田區三崎河岸十二號地
著者 中目井忠一

大大大 明明明
正正正 治治治
元元元 四四四
年年年 十十十
十十十 五五五
二二二 四四四
十十十 三三三
月月月 三三三
廿廿廿 月月月
三三三 七四
日日日 日
修修修 日
正正正 日
四四四 再
版版版 再
發發發 版
行行行 行

正修
一編新
定價金二拾九錢
世界地理教科書上巻

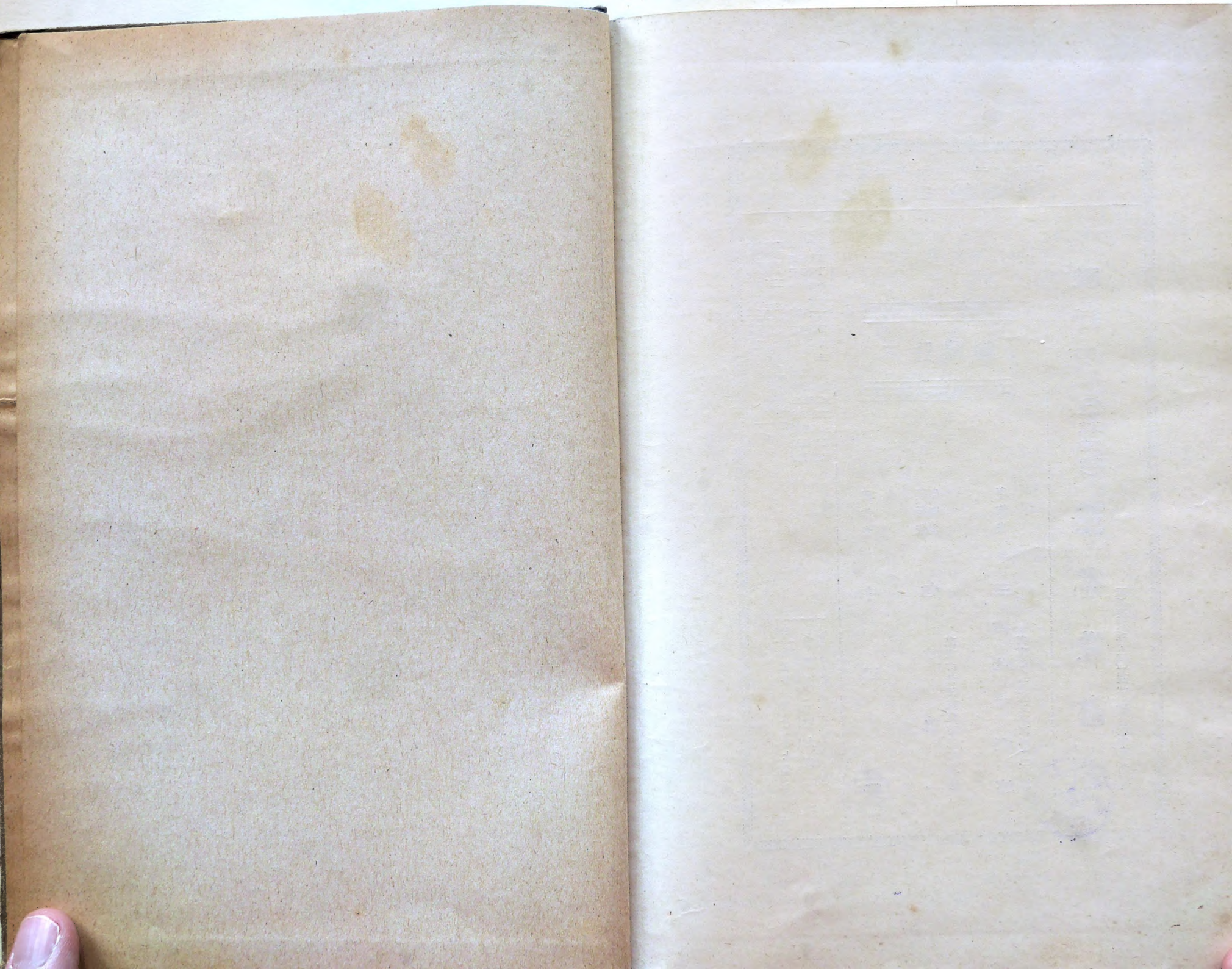


各國貨幣換算表

貨 幣			日 本	清國天津	清國上海	英 國	合衆國	露 國	佛 國	獨 國
			圓	兩	兩	シリング	ダラー	ルーブル	フラン	マルク
日 本	圓=100錢	ハ	—	.74	.76	2.04	.50	.97	2.58	2.09
清國天津	兩=10錢=100分	ハ	1.46	—	1.05	2.76	.67	1.32	3.50	2.83
清國上海	兩=10錢=100分	ハ	1.29	.95	—	2.63	.68	1.23	3.33	2.69
英 國	ポンド=20シリング	ハ	9.76	7.21	7.57	—	4.84	9.49	25.50	20.40
合衆國	ダラー=100センツ	ハ	2.01	1.48	1.55	4.09	—	1.95	5.30	4.25
露 國	ルーブル=100カペーキ	ハ	1.03	.76	.80	2.10	5.10	—	2.66	2.15
佛 國	フラン=100サンチム	ハ	.39	.29	.30	.80	.19	.38	—	.80
獨 國	マルク=100ペンニヒ	ハ	.48	.35	.37	1.00	.24	.47	1.25	—

度量衡比較表

1. 尺 度							
1	尺	=	0.3030	米	=	0.9942	呎
1	里	=	3.9272	籽	=	2.4103	哩
1	米	=	3.3000	尺	=	3.2809	呎
1	籽	=	0.2546	里	=	0.6214	哩
1	呎	=	1.0058	尺	=	0.3048	米
1	哩	=	0.4098	里	=	1.6093	籽
1	漚	=	0.4716	里	=	1.8520	籽
1	尋(6呎)	=	6.0349	尺	=	1.8273	米
2. 面 積							
1	方 尺	=	0.0918	方 米	=	0.9885	方 呎
1	方 里	=	15.4235	方 籽	=	5.9553	方 哩
1	方 米	=	10.8900	方 尺	=	10.7643	方 呎
1	方 籽	=	0.0648	方 里	=	0.3861	方 哩
1	方 呎	=	1.0117	方 尺	=	0.0929	方 米
1	方 哩	=	0.1679	方 里	=	2.5898	方 籽
1	反	=	0.0991	ヘクタール	=	.2451	エー クル
1	ヘクタール	=	10.0833	反	=	2.4719	エー クル
1	エー クル	=	4.0804	反	=	.4046	ヘクタール
3. 容 積・重 量							
1	石	=	180.3906	リットル	=	4.9656	ブ ッ セ ル
1	貫	=	3.7500	キログラム	=	8.2673	ポ ン ド
1	リットル	=	.5544	升	=	.0275	ブ ッ セ ル
1	キログラム	=	.2667	貫	=	2.2046	ポ ン ド
1	ブ ッ セ ル	=	.2014	石	=	36.3275	リットル
1	ポ ン ド	=	.1209	貫	=	.4535	キログラム
1	米 噸	=	266.7000	貫	=	2204.6000	ポ ン ド
1	英 噸	=	270.9460	貫	=	1016.0600	キログラム
1	英 噸(容積)	=	40	立方呎(40才)			





光緒

既